

| | | |
|----------|-------|---------------------------|
| 【授業科目名】 | 助産学概論 | Introduction to Midwifery |
| 【時間割担当者】 | 井上佳子 | |
| 【実施時期】 | 通年 | 【曜日・時限】 授業時間割参照 |
| | | 【単位数】 1 (15時間) |

■授業の概要

助産学を学ぶうえで導入・基盤となる助産の概念、リプロダクティブヘルス/ライツ、助産師の定義と業務、助産師と倫理について説明し、助産学を多面的にとらえ理解を深めるべく、母子保健や助産の歴史、助産を構成する理論、助産師と教育、研究等について、講義、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションを取り入れながら展開する。

■授業のねらい

DP1 DP4 DP5

助産の概念、助産師の責務、助産師と倫理、現代の母子保健政策の現状等を通じ、助産師の使命、アイデンティティ、倫理観を養い、修了後も自己研鑽していく姿勢を身につける。

■授業の到達目標

1. 助産の概念(助産の定義、助産の対象、リプロダクティブヘルス/ライツ)について説明できる。
2. 助産師の定義と業務、倫理について理解する。
3. 助産や母子保健の歴史を理解し、母子保健法およびその関連施策について理解する。
4. 日本および諸外国の助産師教育を学び、助産の将来について自身の考えをまとめることができる。
5. 卒後教育やスキルアップの必要性を理解したうえで、主体的に学び自己研鑽・研究していく目標を具体的に述べるることができる。

■授業スケジュール

| 回 | 授業計画 | 学習のポイント |
|---|------------------|--|
| 1 | 助産の概念 | * 事前に第1章を読んでおく 助産の起源、出産の変遷、助産の概念(助産の定義、助産の対象)について * 復習および予習 |
| 2 | 助産師の定義 助産師の声明 | リプロダクティブヘルス/ライツ、助産師の定義の歴史的推移、助産師の定義(保助看法、ICM、WHO)、助産師の声明について * 次回ミニテストのための学習(復習) |
| 3 | 助産師の業務と責務 | 保助看法(業務、義務、罰則)、看護師等の人材確保の促進に関する法律、その他の関連法規 * 次回ミニテストのための学習 |
| 4 | 助産の歴史と文化 | * 第6章を読んでおく 明治～昭和の助産の変遷、わが国の助産習俗についてグループワーク * 課題グループワークおよびプレゼンテーション準備 |
| 5 | 助産学を支える理論 | ・ 課題プレゼンテーション ・ 助産学を構成する理論について * 夏休みレポート課題(産育習俗)出します |
| 6 | 母子保健の動向と諸制度 | * 第5章を読んでおく 母子保健の歴史(明治～平成)、母子健康手帳について、母子保健の動向と諸制度 * 冬休みレポート課題(助産師と倫理課題)出します |
| 7 | 助産師と教育 | * 第7章を読んでおく わが国の助産師教育の変遷、助産師教育の到達度(ミニマムリクワイアメント)、卒後教育、クリニカルラダー、ICM助産師教育の世界基準、諸外国の助産師教育 * 課題グループワークおよびプレゼンテーション準備 |
| 8 | 助産師の倫理課題 | * 課題グループワークおよびプレゼンテーション準備 助産師の倫理課題について各グループプレゼンテーション まとめ |

■履修要件

なし

■成績評価の方法・基準

| 種別 | 割合 | 評価基準 |
|--------------|-----|---------------------------------------|
| レポート | 60% | 産育習俗レポート30点、倫理課題レポート30点 |
| ミニテスト | 20% | 2回のミニテスト |
| GW・プレゼンテーション | 20% | 取り組み姿勢、積極的発言、プレゼンテーション(内容・わかりやすさ・資料等) |

■教科書・テキスト

助産学講座 1 助産学概論 我部山キヨ子、武谷雄二 編集 医学書院 ISBN978-4-260-01997-2
助産業務要覧 第3版 I 基礎編 福井トシ子 編集 日本看護協会出版会 ISBN978-4-8180-2058-0
わが国の母子保健 H30年 母子衛生研究会 母子保健事業団
助産師の声明

■参考書

助産業務指針 第1版 加藤尚美 監修 日本助産師会 ISBN978-4-905023-00-5
その他、授業内提示します。

■授業外学習の指示（準備学習等に必要な時間含む）

レポート作成とミニテスト準備を含む予習復習、グループワークおよびプレゼンテーション準備
30時間の予習、復習が必要です

■オフィスアワー

9：00～18：00 随時可ですが、時間については事前に相談してください。

■担当教員からのメッセージ

助産学を学ぶうえでの導入として位置付けており、助産師の活動を発展的に考える基礎となります。
新聞・ニュースなど助産にまつわる社会動向について理解しておくことが必要です。

■担当教員の連絡先

井上佳子：inoue-k@seisen.ac.jp 【実務経験あり】

| | | |
|----------|------------------|---|
| 【授業科目名】 | 生殖の形態と機能 | Anatomy and Function of Femal Reproductive System |
| 【時間割担当者】 | 村上節 桂大輔 林香里 山本正仁 | |
| 【実施時期】 | 前期 | 【曜日・時限】 授業時間割参照 【単位数】 1 (30時間) |

■授業の概要

リプロダクションに関する解剖生理、性の行動と機能、遺伝と遺伝疾患、母子と免疫、母子と感染、胎児及び新生児の解剖について学び、助産学の基礎を理解する。

■授業のねらい

DP1 DP2
周産期医療、生殖補助医療の基礎と最新の動向を理解し、倫理的問題に関連付けて考えることができる能力を養う。

■授業の到達目標

1. リプロダクションに関する解剖生理および性機能について理解する。
2. 遺伝、出生前診断、生殖補助医療について理解し、問題・課題について説明できる。
3. ライフサイクル各期における生殖に関連した病態生理や母子と免疫、母子と感染を理解できる。
4. 胎児および新生児、乳幼児の生理について説明できる。
5. リプロダクションに関する臨床検査を理解し、基礎的な判読ができる。

■授業スケジュール

| 回 | 授業計画 | 学習のポイント |
|---------------|------------------------------|---|
| 1 | リプロダクションに関する解剖生理(村上) | ・母性の身体的特徴 ・生殖器の生理 ・卵巣機能 ・妊娠成立の成立 ・性感染症 |
| 2 | リプロダクションに関する解剖生理(村上) | ・母性の身体的特徴 ・生殖器の生理 ・卵巣機能 ・妊娠成立の成立 ・性感染症 |
| 3 | 女性のライフサイクル各期におこる主な疾患(村上) | ・加齢と疾患 (小児期の疾患・思春期の疾患・成熟期の疾患・更年期の疾患・老年期の疾患) |
| 4 | 女性のライフサイクル各期におこる主な疾患(村上) | ・加齢と疾患 (小児期の疾患・思春期の疾患・成熟期の疾患・更年期の疾患・老年期の疾患) |
| 5 | 性の行動と性機能(村上) | ・性の分化と発達 性交と性反応 不妊症 |
| 6 | 性の行動と性機能(村上) | ・生殖補助医療 |
| 7 | 性の行動と性機能(村上) | ・性同一性障害 |
| 8 | 遺伝と遺伝疾患(桂大輔) | ・ゲノム、DNA、遺伝子、染色体の分裂・分裂、染色体異常と流産 ・13・18・21トリソミー、ターナー症候群、クラインフェルター症候群 |
| 9 | 遺伝と遺伝疾患(桂大輔) | ・単一遺伝性疾患について、非メンデル遺伝病、エピジェネティクス ・DOHaD、遺伝カウンセリング、再発率 |
| 10 | 出生前診断 リプロダクションに関する検査(桂大輔) | ・出生前診断とは ・確定診断と非確定診断 ・出生前検査(羊水検査、NIPT、超音波検査、着床前診断) |
| 11 | 母子と免疫(桂大輔) | ・自然免疫と獲得免疫 ・細胞性免疫と液性免疫 ・不育症(抗リン脂質抗体)、Rh 不適合妊娠、ABO 不適合妊娠、その他 ・胎児の免疫学的特性、新生児の免疫学的特性 |
| 12 13 | 母子と感染(林香里) | ・母子感染について ・細菌性膣症、クラミジア、GBS、トキソプラズマ、風疹、B型肝炎、C型肝炎、ヘルペス、HIV、HTLV-1、梅毒、PB19、HPV 尖圭コンジローマ、*HIV感染者のCS対応について |
| 14 | 新生児の生理、乳幼児の成長発達(山本) | ・新生児の用語、分類、出生時の評価(血液ガス、新生児の基本管理:呼吸、循環、体温、神経学的評価)、黄疸、低血糖、分娩時外傷、 |
| 15 | 新生児の生理、乳幼児の成長発達(山本) | ・新生児の適応生理、胆道閉鎖、先天性代謝異常、フィジカルアセスメント ・乳幼児の発育発達 |

■履修要件

なし

■成績評価の方法・基準

| 種別 | 割合 | 評価基準 |
|------|------|-----------------|
| 定期試験 | 100% | 筆記試験および指定課題レポート |

■教科書・テキスト

助産学講座2「母子の基礎科学」 我部山キヨ子、武谷雄二編集 医学書院 ISBN978-4-260-01837-1
 助産学講座6「助産診断・技術学Ⅱ妊娠期」 我部山キヨ子、武谷雄二編集 医学書院 ISBN978-4-260-01613-1
 ・横尾京子 編集:助産学講座8助産診断・技術学Ⅱ「新生児期・乳幼児期」、医学書院、ISBN978-4-260-01577-6

■参考書

プリンシプル産科婦人科学 改訂版 武谷雄二他監修 メジカルビュー
周産期遺伝相談 神崎秀陽他編 医学書院
病気がみえる9(婦人科) 10(産科) 医療情報科学研究所編 メディックメディア
産婦人科ガイドライン 産科編2014 日本産科婦人科学会/日本産婦人科医会編集・監修 日本産婦人科医会
最新産科学 正常編・異常編 第22版 荒木勤著 文光堂
新生児学入門 第5版 仁志田博司 医学書院
新生児学テキスト 一般社団法人日本新生児成育医学会編 メディカ出版

■授業外学習の指示(準備学習等に必要な時間含む)

助産診断を実践するために必要な知識であり、30時間の予習、復習が必要です。

■オフィスアワー

各講師授業時間後に質問してください。

■担当教員からのメッセージ

母性看護学の基礎的知識は復習して授業に臨んでください。予習復習が重要です。

■担当教員の連絡先

別科助産専攻 教務課

| | | |
|----------|-----------|-----------------|
| 【授業科目名】 | ウィメンズヘルス論 | Women's Health |
| 【時間割担当者】 | 木村知子 | 出石万希子 |
| 【実施時期】 | 前期 | 【曜日・時限】 授業時間割参照 |
| | | 【単位数】 2 (30時間) |

■授業の概要

ウィメンズヘルスの概念や援助の基本、女性のライフサイクル各期における性と生殖に関する健康問題と支援について学び、ウィメンズヘルスケアが実践できる能力を養う。

また、家族計画の概念と受胎調節に必要な知識を学び、受胎調節指導が実践できる能力を養う。

■授業のねらい

DP1 DP2 DP3 DP4

ウィメンズヘルスの概念を理解し、女性のライフサイクル各期におけるウィメンズヘルスケアの基礎を学ぶ。ウィメンズヘルスに関連した集団保健指導を実際に行う（看護学部母性看護概論における授業）。

■授業の到達目標

1. ウィメンズヘルスの概念が説明できる。
2. 女性のライフサイクルにおける健康問題と看護支援について説明できる。
3. 家族計画に関する理論の基に受胎調節指導技術が説明できる。

■授業スケジュール

| 回 | 授業計画 | 学習のポイント |
|----|--|---|
| 1 | 科目ガイダンス ウィメンズヘルスの概念 (木村) | 母性看護学とウィメンズヘルスケア、リプロダクティブヘルス/ライツ、性科学・性教育、性教育の歴史 ※課題：我が国の学校教育における性教育の変遷についてまとめること |
| 2 | 女性の身体のしくみ 女性のライフサイクルにおける性と生殖に関する健康問題と看護援助 (木村) | 女性の身体とライフサイクル、女性を取り巻く社会 思春期女性への援助、成熟期女性への援助 |
| 3 | 看護援助としての健康教育 (木村) | 健康教育の方法、健康教育の進め方、健康教育における諸技法 大学2回生に必要なウィメンズヘルスに関する看護援助 |
| 4 | 女性の身体のしくみ 女性のライフサイクルにおける性と生殖に関する健康問題と看護援助 (木村) | 更年期女性への援助、老年期女性への援助 |
| 5 | 女性の身体のしくみ 女性のライフサイクルにおける性と生殖に関する健康問題と援助 (木村) | 不妊症、産後うつ |
| 6 | 現代女性に特別に支援を要する健康問題 (木村) | LGBT、DV、性暴力 ※課題：第4回～第6回の授業項目の中からいずれかのテーマを選択し、助産師としてできる対策についてまとめること |
| 7 | ウィメンズヘルスケアの知識を活かした女性特有の医療保険（演習） (木村) | 女性向け医療保険の現状、女性特有の疾患、女性特有の医療保険を考える ※課題：①ウィメンズヘルスの視点から、独自の女性向け医療保険を考案し内容をまとめること②女性特有の各疾患についてノートにまとめておくこと |
| 8 | 女性のヘルスケア（演習） (木村) | 大学2年生の男女を対象にしたウィメンズヘルスに関連する集団指導＜集団指導 デモンストレーション＞ (木村知子) |
| 9 | 女性のヘルスケア（演習 模擬授業） (木村) | 大学2年生の男女を対象にしたウィメンズヘルスに関連する集団指導 ＜看護学部2回生母性看護概論と合同授業＞ (木村知子) |
| 10 | 家族計画に関する基礎知識 (出石) | 家族計画の意義、家族計画に関連した法的知識 ※事前に家族計画に関連した法律について調べてまとめておくこと |
| 11 | 家族計画に関する基礎知識 (出石) | 各種受胎調節法の理論と実際 |
| 12 | 受胎調節実地指導の実際（演習） (出石 木村) | 避妊法（コンドーム）に関する指導 ・ 褥婦を対象として ・ 思春期にある男女を対象として ※課題：事前に各年代の対象者に対する指導企画書を作成しておくこと |

| | | |
|----|----------------------------|--|
| 13 | 受胎調節実地指導の実際（演習） （出石 木村） | 産後の家族計画について集団指導 ※課題：事前に初産婦および経産婦それぞれの集団に対する指導企画書を作成しておくこと |
| 14 | 受胎調節実地指導の実際（演習） （出石 木村） | 産後の家族計画について個別指導 ※課題：事前に個別指導用の指導案およびパンフレットを準備しておくこと |
| 15 | 受胎調節実地指導の実際（演習） （出石 木村） | 産後の家族計画について個別指導 ※課題：事前に個別指導用の指導案およびパンフレットを準備しておくこと |

■履修要件

なし

■成績評価の方法・基準

| 種別 | 割合 | 評価基準 |
|------|------|-----------------------------|
| 定期試験 | 70 % | 筆記試験 |
| 平常点 | 30 % | 課題レポートや演習における提出物（個人・グループ）など |

■教科書・テキスト

助産師基礎教育テキスト2 吉沢豊予子 責任編集 日本看護協会出版会 ISBN978-4-8180-2022-1

助産師基礎教育テキスト6 横尾京子 責任編集 日本看護協会出版 ISBN978-4-8180-2026-9

助産学講座4、「母子の心理・社会学」 我部山キヨ子、菅原ますみ 編集 医学書院 ISBN978-4-260-02186-9

助産学講座5、「助産診断・技術学Ⅰ」 堀内成子 編集 医学書院 ISBN978-4-260-01583-7

■参考書

周産期ドメスティックバイオレンスの支援ガイド 聖路加看護大学女性を中心としたケア研究班／編 金原出版
封じ込められた子ども、その心を聴く 中塚幹也 著 ふくろう出版

その他随時紹介します

■授業外学習の指示（準備学習等に必要な時間含む）

看護基礎教育（母性看護学）で学んだ以下の点について復習をして臨んで下さい。

- ・女性の性周期について、特にホルモンについて
- ・女性のライフサイクル各期とその特徴について

■オフィスアワー

水曜日 午前 研究室

■担当教員からのメッセージ

担当者は、アドバンス助産師で臨床で勤務していた経験を有します。それらを活かして授業に臨みます。

助産師国家試験の基礎助産学Ⅰ、助産診断・技術学Ⅰのそれぞれ一部、受胎調節実地指導員（リプロヘルスサポーター）資格取得に関連する科目です。

■担当教員の連絡先

kimura-t@seisen.ac.jp【実務経験あり】

deishi-m@seisen.ac.jp【実務経験あり】

| | | |
|----------|----------|----------------------------|
| 【授業科目名】 | 母性の社会心理学 | Motherly Social Psychology |
| 【時間割担当者】 | 高橋啓子 | 高橋里亥 |
| 【実施時期】 | 前期 | 【曜日・時限】 授業時間割参照 |
| | | 【単位数】 1 (30時間) |

■授業の概要

女性のライフサイクル各期におけるメンタルヘルスへの支援について学ぶとともに家族のライフサイクル、父性と発達、性的役割とジェンダー等母子の心理・社会的側面のケアを学ぶ。また、世界や現代日本の子育て支援について学び、家族支援の在り方を理解する。

■授業のねらい

DP1 DP2 DP3 DP4
女性のライフサイクル各期における社会心理学の基礎的概念や親子関係を学び、家族支援の基礎とする。

■授業の到達目標

1. メンタルヘルスの概念が説明できる。
2. 女性のライフサイクル各期におけるメンタルヘルスへの支援が説明できる。
3. 家族の社会的機能や子育て支援が説明できる。
4. 子育て支援を担う相談機関および専門職が説明できる。

■授業スケジュール

| 回 | 授業計画 | 学習のポイント |
|----|---------------------------|--|
| 1 | 女性のライフサイクルとメンタルヘルス (高橋啓子) | ・思春期・青年期におけるメンタルヘルスへの支援 摂食障害、パニック障害、性被害、犯罪被害 |
| 2 | 女性のライフサイクルとメンタルヘルス (高橋啓子) | ・思春期・青年期におけるメンタルヘルスへの支援 摂食障害、パニック障害、性被害、犯罪被害 |
| 3 | 女性のライフサイクルとメンタルヘルス (高橋啓子) | ・思春期・青年期におけるメンタルヘルスへの支援 摂食障害、パニック障害、性被害、犯罪被害 |
| 4 | 成人期におけるメンタルヘルスへの支援 (高橋啓子) | ・妊娠・出産をめぐる問題や疾病 |
| 5 | 成人期におけるメンタルヘルスへの支援 (高橋啓子) | ・妊娠・出産をめぐる問題や疾病 |
| 6 | 中年期・老年期 (高橋啓子) | ・中年期・老年期の疾病 |
| 7 | 親子関係の問題 (高橋啓子) | ・母子関係の問題 ・父子関係の問題 ・子育て支援 |
| 8 | 親子関係の問題 (高橋啓子) | ・母子関係の問題 ・父子関係の問題 ・子育て支援 |
| 9 | 親子関係の問題 (高橋啓子) | ・母子関係の問題 ・父子関係の問題 ・子育て支援 |
| 10 | 家族と社会 (高橋啓子) | ・家族と法、相談機関 ・母性の病理 |
| 11 | 父母と社会 (高橋啓子) | ・母親と社会 ・父親と社会 |
| 12 | 子どもと社会 (高橋啓子) | ・現代の家族支援へのみちのり ・現代日本の子育て支援 ・さまざまな子育て支援 |
| 13 | 子どもと社会 (高橋里亥) | ・世界の子育て支援 ※事前課題：海外の子育て支援について、教科書・参考書を用いて事前学習しておくこと 事後課題：子育て支援における助産師の役割について A4 用紙にまとめて提出すること |
| 15 | 子どもと社会 (高橋里亥) | ・世界の子育て支援 ※事前課題：海外の子育て支援について、教科書・参考書を用いて事前学習しておくこと 事後課題：子育て支援における助産師の役割について A4 用紙にまとめて提出すること |

■履修要件

なし

■成績評価の方法・基準

| 種別 | 割合 | 評価基準 |
|------|------|--------|
| 定期試験 | 70 % | 筆記試験 |
| 平常点 | 30 % | 課題レポート |

■教科書・テキスト

助産学講座 4「母子の心理・社会学」 我部山キヨ子、菅原ますみ 編集 医学書院 ISBN978-4-260-02186-9

■参考書

子ども虐待の臨床 坂井聖二他 編著 南山堂

■授業外学習の指示（準備学習等に必要な時間含む）

教科書は事前に読み込んでおいてください。疑問点がありましたら、授業中か、メールでもご質問ください。

■オフィスアワー

木曜日午後 カウンセリングセンター内個人研究室にいます。念のためメールをください。

■担当教員からのメッセージ

母子を取り巻く社会情勢の変化は助産実践の基礎的・科学的基盤として重要です。
60時間の予習・復習が必要です。

■担当教員の連絡先

高橋啓子：個人研究室電話・学内メールについては授業中に配付します。

高橋里玄：別科助産専攻 教務課

| | | | | |
|----------|------|-----------|--------|-----------------|
| 【授業科目名】 | 生命倫理 | Bioethics | | |
| 【時間割担当者】 | 佐藤泰子 | | | |
| 【実施時期】 | 前期 | 【曜日・時限】 | 火 3 時限 | 【単位数】 1 (15 時間) |

■授業の概要

倫理学の基礎知識を学び、生命倫理上で取り挙げられる医療における諸問題について考える。特に生殖医療の課題を学び、助産における支援、責務について理解する。

■授業のねらい

DP1

医療技術の進歩に伴う生殖医療の多様な考え方を学び、助産師として倫理観を養う基礎とする。また医療者が向き合うべき「生と死」の問題を扱い、自身の死生観をとらえてみる。

■授業の到達目標

1. 母子保健医療に関連のある生命倫理上の問題について説明できる。
2. 生殖補助医療における助産師の責務について説明できる。
3. 生殖補助医療における自分の考えを述べるができる。

■授業スケジュール

| 回 | 授業計画 | 学習のポイント |
|---|--------------------|---|
| 1 | 生命倫理の基盤となる倫理学の基礎知識 | 生命倫理の基礎知識と生命倫理の概念 |
| 2 | 生命倫理の基盤となる倫理学の基礎知識 | 優生思想とその歴史的背景、第2次大戦以降の生命倫理 |
| 3 | 生命倫理の基盤となる倫理学の基礎知識 | 生命観の変遷を科学史とともに概観する |
| 4 | 生殖補助医療と障害者問題 | 出生前診断と妊娠中絶について事例をもとに障害者差別とジェンダーの視点から考える |
| 5 | 生殖補助医療と障害者問題 | 生殖補助医療が抱える問題（AID、代理母など） |
| 6 | 生殖補助医療と障害者問題 | AIDと精子バンク、減数手術、代理母、出生前診断と妊娠中絶、宗教的価値と生命観 |
| 7 | 終末期医療 | 安楽死、尊厳死 |
| 8 | まとめ | NBM と生命倫理（妊婦や患者と向き合うとは、寄りそうとは、聴くとは） |

■履修要件

なし

■成績評価の方法・基準

| 種別 | 割合 | 評価基準 |
|-----|------|----------|
| 試験 | 60 % | 指定課題レポート |
| 平常点 | 40 % | 授業への取り組み |

■教科書・テキスト

随時プリント等の配布

■参考書

助産学講座1、「助産学概論」 我部山キヨ子、武谷雄二 編集 医学書院 ISBN978-4-260-01997-2

助産師業務要覧Ⅰ基礎編 福井トシ子 編集 日本看護協会出版会 ISBN978-4-8180-2058-0

助産師業務要覧Ⅱ実践編 福井トシ子 編集 日本看護協会出版会、ISBN978-4-8180-2059-7

ベーシック 生命・環境倫理 徳永哲也著 世界思想社 ISBN987-4-7907-1606-8

■授業外学習の指示（準備学習等に必要な時間含む）

生殖医療、障害者問題、終末医療などの問題について新聞や書籍、インターネットなどの情報に注目しておいてください。30時間の予習、復習が必要です。

■オフィスアワー

授業前後

■担当教員からのメッセージ

生殖補助医療について、各自で事例の文献学習をし、自分の考えが述べられるように主体的な学習を期待します。

■担当教員の連絡先

別科助産専攻教務課

| | | |
|----------|---------------------------|-------------------------------------|
| 【授業科目名】 | 助産診断・技術学 I (妊娠期の助産診断・技術学) | Diagnosis and Practice of Midwifery |
| 【時間割担当者】 | 出石万希子 | |
| 【実施時期】 | 前期 | 【曜日・時限】 授業時間割参照 |
| | | 【単位数】 2 (30 時間) |

■授業の概要

助産診断の概念と枠組みを理解し、妊婦の助産診断、妊婦の援助技術、妊娠期の正常と異常経過における妊婦のケアについて理解させ、妊婦に対して適切な助産診断と援助技術を実践できる基礎的能力を養う。また、妊婦健診に必要な診察技術や超音波の原理と技法とその実践過程を学ぶ。

■授業のねらい

DP1 DP2 DP3 DP4

助産診断に必要な理論と知識を習得し、妊婦を全人的に捉え、倫理的配慮をふまえた妊娠期の助産過程の展開ができる。また、助産ケアを通して、妊婦や家族との関わり方を学び、コミュニケーション能力を身につけることを目指す。

■授業の到達目標

1. 助産過程を理解し、助産診断の概念が説明できる。助産診断の枠組み(経過診断・健康生活診断)と診断類型・診断指標を説明できる。
2. 妊娠期のフィジカルアセスメントとケアを理解し、説明できる。
3. 妊娠期の助産診断(情報収集・アセスメント・診断)に基づき、助産計画(目標設定・具体策・評価)を立案しケアが説明できる。
4. ハイリスク・異常妊婦のアセスメントとケアの説明ができる。
5. 胎児モニタリング・超音波画像の判読ができる。

■授業スケジュール

| 回 | 授業計画 | 学習のポイント |
|----|-----------------------------|--|
| 1 | 助産診断・技術学の概要 | 助産診断・技術学成立の経緯と概要、助産過程の理論の講義を行う ※事前に助産学講座6(医学書院)の第1章を読んで、看護診断の分類をノートにまとめておくこと |
| 2 | 妊娠の生理 | 妊娠の生理と確定診断、胎児の成長発達の講義を行う ※事前課題:性周期とホルモンの関係について復習しておくこと(授業開始時に小テストします) 事後課題:妊娠経過一覧表の作成 |
| 3 | 妊娠の生理 | 妊娠による母体の変化の講義後にグループワークを行う ※事前課題:①母体の生理的变化とその原因、生理的变化に関連するマイナートラブルと対処法を調べておくこと②自身が持つ妊婦のイメージ(身体的・心理的・社会的側面)をまとめておくこと |
| 4 | 妊娠期の心理的・社会的変化 | 心理的・社会的変化とケアについてのグループワークを行う ※事前課題:①各発達段階の発達課題についてまとめておくこと②アギュララとメズウィックの危機理論、ラザルスのストレス・コーピング理論を調べておくこと |
| 5 | 妊娠期の異常・ハイリスク妊娠 妊娠期の薬剤・手術 | 妊娠期の異常と病態生理、妊娠期に用いる薬剤、妊娠期の産科手術の講義を行う ※事前課題:妊娠期の異常についてノートにまとめておくこと(小テストをします) 事後課題:妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病、妊娠貧血の病態関連図の作成 |
| 6 | 妊娠期の異常・ハイリスク妊娠 | ハイリスク妊娠とその管理についての講義を行う ※事前課題:ハイリスク妊娠についてノートにまとめておくこと(小テストをします) |
| 7 | 妊娠期のフィジカルアセスメント | 妊婦健康診査、妊婦健康診査に必要な技術、妊娠の診断、妊娠期の経過診断、胎児の発育と健康状態の診断についての講義を行う ※事前に教科書・参考書を読んでノートにまとめておくこと |
| 8 | 妊娠期のフィジカルアセスメント | 胎児心拍モニタリングの基本と判読 ※事後課題:事例による胎児心拍数図の判読 |
| 9 | 妊娠期の保健指導 | 妊娠経過一覧表(第2回の事後課題)を使用し、妊娠各期に必要な保健指導についてペアワークを行う ※事前課題:①妊娠経過一覧表を完成させておくこと②母子健康手帳を読んでおくこと③集団指導と個別指導の目的、方法、留意点をまとめておくこと 事後課題:①集団指導(前期・後期母親教室)の企画案の作成②保健指導用の指導案とパンフレットの作成 |
| 10 | 妊娠期の保健指導 | 集団指導の企画案の発表とディスカッション ※事前課題:集団指導(前期・後期母親教室)の企画案の作成 |

| | | |
|----|-------------|---|
| 11 | 妊娠期の助産過程の展開 | 正常な妊婦事例の助産診断と計画立案のペアワークを行う (各自発表後に講評を行う) ※事前に配布した事例を読み、アセスメントと助産診断をしておくこと |
| 12 | 妊娠期の助産過程の展開 | 妊娠高血圧症候群の妊婦事例の助産診断と計画立案のペアワークを行う (各自発表後に講評を行う) ※事前に配布した事例を読み、アセスメントと助産診断をしておくこと |
| 13 | 妊娠期の助産過程の展開 | 妊娠糖尿病の妊婦事例の助産診断と計画立案のペアワークを行う (各自発表後に講評を行う) ※事前に配布した事例を読み、アセスメントと助産診断をしておくこと |
| 14 | 妊娠期の助産過程の展開 | 社会的ハイリスクのある妊婦事例のアセスメントと助産診断 (各自発表後に講評を行う) ※事前に配布した事例を読み、アセスメントと助産診断をしておくこと |
| 15 | ハイリスク妊婦への支援 | 社会的ハイリスクのある妊婦の支援について講義を行う ※事前課題：子育て世代包括支援システムについて調べておくこと |

■履修要件

なし

■成績評価の方法・基準

| 種別 | 割合 | 評価基準 |
|------|------|----------------|
| 定期試験 | 70 % | 筆記試験 |
| 平常点 | 30 % | 小テスト、課題学習および発表 |

■教科書・テキスト

助産学講座2「母子の基礎科学」 我部山キヨ子、武谷雄二 編集 医学書院 ISBN978-4-260-01873-1
 助産学講座3「母子の健康科学」 我部山キヨ子、武谷雄二 編集 医学書院 ISBN978-4-260-02173-9
 助産学講座6「助産診断・技術学Ⅱ妊娠期」 我部山キヨ子、武谷雄二 編集 医学書院 ISBN978-4-260-01613-1
 助産師基礎教育テキスト第4巻 森恵美 責任編集 日本看護協会出版会 ISBN978-4-8180-2024-5
 助産師基礎教育テキスト第7巻 森恵美 責任編集 日本看護協会出版会 ISBN978-4-8180-2027-6
 全43症例学習 胎児心拍数モニタリング判読 古橋円 著 日総研 ISBN978-4-7760-1647-2

■参考書

実践マタニティ診断第4版 青木康子 編 医学書院 ISBN978-4-260-02493-8
 今日の助産 改訂版 北川眞理子 編 南江堂 ISBN978-4-524-26377-6
 最新産科学 正常編・異常編 荒木勤 著 文光堂
 週数別妊婦健診マニュアル 藤井知行 編集 医学書院 ISBN978-4-260-03601-6
 病気がみえる⑨婦人科・乳腺外科 医療情報科学研究所 編集 メディックメディア ISBN978-4-89632-712-0
 病気がみえる⑩産科 医療情報科学研究所 編集 メディックメディア ISBN978-4-89632-713-7

■授業外学習の指示 (準備学習等に必要な時間含む)

毎回、2時間程度の予習と復習が必要です。事前・事後課題は各自で準備したファイルにとじてください。課題ファイルは最終講に提出とし、取り組み状況や理解度の確認を行います。

また、妊娠期の保健指導パンフレットと指導案の作製に随時取り組んでください。このパンフレットおよび指導案は助産学実習Ⅱ(継続事例実習)で使用します。提出期限等は随時指示があります。

■オフィスアワー

9:00~18:00 (事前に時間の相談をしてください)

■担当教員からのメッセージ

助産学の基礎であることから診断力を高めるために予習復習が大切です。

■担当教員の連絡先

出石: deishi-m@seisen.ac.jp 【実務経験あり】

| | | |
|----------|--------------------------|-------------------------------------|
| 【授業科目名】 | 助産診断・技術学Ⅱ（分娩期の助産診断・技術学） | Diagnosis and Practice of Midwifery |
| 【時間割担当者】 | 中井恭子 出石万希子（演習：井上佳子） 山本正仁 | |
| 【実施時期】 | 前期 | 【曜日・時限】 授業時間割参照 【単位数】 2（60時間） |

■授業の概要

助産診断の概念と枠組みを理解し、産婦及び分娩経過にかかわる助産診断、産婦への援助技術と分娩介助技術を修得し、分娩期にある産婦について適切な助産診断ができ、分娩介助を含む助産技術を実践できる基礎能力を養う。

■授業のねらい

DP1 DP2 DP4

分娩期における助産過程の展開について理解し、事例において助産診断（情報収集・アセスメント・診断）に基づき、助産計画（目標設定・具体策）を立案し、実践に用いることができる。出生直後の新生児のケア技術、早期母子接触について理解し実践できる。

NCPR(Aコース)を取得し助産師活動に活用できる。

■授業の到達目標

1. 分娩期の経過診断・健康診断ができる。
2. 分娩期における助産過程の展開について理解し、事例において助産診断（情報収集・アセスメント・診断）に基づき、助産計画（目標設定・具体策）を立案し、実践に用いることができ、また実施したケアの評価ができる。
3. 分娩期に必要な経過診断・ケア・分娩介助技術が習得できる。
4. 新生児に必要な助産診断・ケアができる。
5. ハイリスク、異常産婦のアセスメントとケアが説明できる。
6. NCPR(Aコース)の認定資格を習得する。

■授業スケジュール

| 回 | 授業計画 | 学習のポイント |
|----|----------------------------|---|
| 1 | オリエンテーション（出石） 分娩の生理（中井） | 分娩の定義と種類、分娩の3要素、分娩が母体および胎児に及ぼす影響 |
| 2 | 分娩期の心理社会的変化（中井） | 産婦の心理と家族関係の特徴、産婦の健康生活、分娩の4要素 |
| 3 | 分娩期の助産診断（出石） | 分娩期の助産診断の特徴と診断類型 |
| 4 | 分娩期の助産診断（出石） | 分娩期のフィジカルアセスメント |
| 5 | 産婦の支援（中井） | 産婦の支援の基本、分娩経過にそったケア |
| 6 | 分娩期の異常・偶発疾患（中井） | 分娩の3要素の異常、分娩に伴う損傷・偶発疾患・合併症 |
| 7 | ハイリスク・異常分娩時のアセスメントと支援（中井） | ハイリスク・異常分娩時のアセスメント、ハイリスク・異常産婦への支援 |
| 8 | 分娩介助法（中井） | 分娩介助の意義・原理、正常分娩の娩出機転、仰臥位分娩介助法の原理、分娩介助時の技術 |
| 9 | 分娩介助法（中井） | フリースタイル分娩介助法の原理 |
| 10 | 分娩介助法（中井） | 付属物の検査と計測、出生直後の新生児のケア |
| 11 | 分娩期の胎児の健康状態の評価（中井） | 分娩期の胎児心拍数図の判読 |
| 12 | 分娩期の胎児の健康状態の評価（中井） | 分娩期の胎児心拍数図の判読 |
| 13 | 産科手術および産科的医療処置（中井） | 産科手術・医療処置各論（分娩誘発・促進法、クリステレル圧出法、吸引・鉗子分娩、会陰切開・縫合術、会陰裂傷・膣壁裂傷縫合術、頸管裂傷縫合術） |
| 14 | 産科手術および産科的医療処置（中井） | 産科手術・医療処置各論（胎盤用手剥離、双手圧迫法、その他の処置）、無痛分娩、産科の救急処置 |
| 15 | 分娩期の助産過程の展開（出石・中井） | 正常経過の産婦（初産婦）事例の助産診断と計画立案のペアワークを行う ※事前課題：事前に配布した事例のアセスメントと助産診断をしておくこと（授業終了後に提出） |
| 16 | 分娩期の助産過程の展開（出石・中井） | 墜落産（経産婦）の事例の助産診断と計画立案のペアワークを行う ※事前課題：事前に配布した事例のアセスメントと助産診断をしておくこと（授業終了後に提出） |
| 17 | 分娩期の助産過程の展開（出石・中井） | 前期破水の産婦事例の助産診断と計画立案のペアワークを行う ※事前課題：事前に配布した事例のアセスメントと助産診断をしておくこと（授業終了後に提出） |
| 18 | 分娩期の助産過程の展開（出石・中井） | 誘発分娩の産婦事例の助産診断と計画立案のペアワークを行う ※事前課題：事前に配布した事例のアセスメントと助産診断をしておくこと（授業終了後に提出） |
| 19 | 分娩期の助産過程の展開（出石・中井） | 誘発分娩の産婦事例の助産診断と計画立案のペアワークを行う ※事前課題：事前に配布した事例のアセスメントと助産診断をしておくこと（授業終了後に提出） |

| | | |
|---------------|---|---|
| 20 | 分娩期の助産過程の展開（出石・中井） | 分娩第1期に胎児心拍異常が出現した産婦の助産診断と計画立案のペアワークを行う ※事前課題：事前に配布した事例のアセスメントと助産診断をしておくこと（授業終了後に提出） |
| 21 | 分娩期の助産過程の展開（出石・中井） | 分娩第1期に胎児心拍異常が出現した産婦の助産診断と計画立案のペアワークを行う ※事前課題：事前に配布した事例のアセスメントと助産診断をしておくこと（授業終了後に提出） |
| 22 | 分娩期の助産過程の展開（出石・中井） | 遷延分娩の産婦事例の助産診断と計画立案のペアワークを行う ※事前課題：事前に配布した事例のアセスメントと助産診断をしておくこと（授業終了後に提出） |
| 23 | 分娩期の助産過程の展開（出石・中井） | 遷延分娩の産婦事例の助産診断と計画立案のペアワークを行う ※事前課題：事前に配布した事例のアセスメントと助産診断をしておくこと（授業終了後に提出） |
| 24 | 分娩介助演習 （中井、出石、井上） | 分娩第1期のケア、仰臥位分娩介助法、胎盤計測、内診、出生直後の新生児ケア ※事前学習：授業内容の復習ワークシートをしておくこと 事後課題：技術練習を各自で行うこと |
| 25 | 分娩介助演習 （中井、出石、井上） | 分娩第1期のケア、仰臥位分娩介助法、胎盤計測、内診、出生直後の新生児ケア ※事前学習：授業内容の復習ワークシートをしておくこと 事後課題：技術練習を各自で行うこと |
| 26 | 分娩介助演習 （中井、出石、井上） | 分娩第1期のケア、仰臥位分娩介助法、胎盤計測、内診、出生直後の新生児ケア ※事前学習：授業内容の復習ワークシートをしておくこと 事後課題：技術練習を各自で行うこと |
| 27 30 | NCPR 専門：A コース講習会（山本） 場所：長浜赤十字病院 | 日本版救急蘇生2015に基づく新生児蘇生法認定講習会 ※事前にテキストを予習し、認定試験に臨むこと ※講習会終了後、NICU見学 |

■履修要件

なし

■成績評価の方法・基準

| 種別 | 割合 | 評価基準 |
|------|------|----------------|
| 定期試験 | 80 % | 筆記試験、分娩介助の実技試験 |
| 平常点 | 20 % | 課題学習、演習 |

■教科書・テキスト

助産学講座7 我部山キヨ子、武谷雄二 編集 医学書院 ISBN978-4-260-01572-1
 助産学講座8 我部山キヨ子、武谷雄二 編集 医学書院 ISBN978-4-260-01577-6
 助産師基礎教育テキスト第5巻 町浦美智子 責任編集 日本看護協会出版会 ISBN978-4-8180-1825-9
 助産師基礎教育テキスト第6巻 横尾京子 責任編集 日本看護協会出版会 ISBN978-4-8180-1826-6
 全43症例学習 胎児心拍モニタリング判読 古橋円 著 日総研 ISBN978-4-7760-1647-2
 新生児蘇生法テキスト改訂第3版 田村正徳 監修 メジカルビュー ISBN978-4-7583-1732-0

■参考書

助産学講座3 我部山キヨ子、武谷雄二 編集 医学書院 ISBN978-4-260-00549-4
 助産師基礎教育テキスト第7巻 遠藤俊子 責任編集 日本看護協会出版会 ISBN978-4-8180-1826-6
 産婦人科ガイドライン産科編2017 日本産科婦人科学会/日本産婦人科医会 編集・監修 日本産婦人科医会
 助産業務ガイドライン2014 日本助産師会助産業務ガイドライン改定特別委員会 日本助産師会出版
 実践マタニティ診断 日本助産診断・実践研究会 編著 医学書院
 病気がみえる10 産科 第4版 医療情報科学研究所 編 メディックメディア

■授業外学習の指示（準備学習等に必要時間含む）

特に分娩介助演習は、時間外での学生間による繰り返しの演習が必須となります。
 別科助産演習室の使用には事前の申し込みが必要です。
 1時間の講義に対して2時間の予習復習の時間が必要となります。

■オフィスアワー

9:00～17:00 研究室

■担当教員からのメッセージ

助産学実習Ⅰ・Ⅱで実践する科目であり、確実に反映されるために自己学習をして下さい。

■担当教員の連絡先

中井恭子 : nakai-k@seisen.ac.jp 【実務経験あり】

出石万希子 : deishi-m@seisen.ac.jp 【実務経験あり】

井上佳子 : inoue-k@seisen.ac.jp 【実務経験あり】

| | | |
|----------|--------------------------------------|-------------------------------------|
| 【授業科目名】 | 助産診断・技術学Ⅲ（産褥期・新生児期の助産診断・技術学） | Diagnosis and Practice of Midwifery |
| 【時間割担当者】 | 出石万希子 中井恭子 井上佳子 木村知子 漆野裕子 戸田美幸 中村美由紀 | |
| 【実施時期】 | 通年 | 【曜日・時限】 授業時間割参照 【単位数】 2 (60時間) |

■授業の概要

助産診断の概念と枠組みを理解し、褥婦の産褥経過にかかわる助産診断、褥婦への援助技術を学び、適切な助産診断と助産技術を実践できる基礎能力を養う。新生児の生理、援助技術を理解し、適切な援助が実践できるとともに新生児蘇生法の理論と技術を習得する。

■授業のねらい

DP1, 2, 3, 4

産褥期の助産診断に必要な知識を習得し、褥婦および新生児を全人的に捉え、母子を取り巻く社会背景を視点に含め、倫理的配慮をふまえた産褥期・新生児期の助産過程を展開できる。助産ケアを通して、褥婦や家族との関わり方を学び、コミュニケーション能力を身につけることを目指す。

■授業の到達目標

1. 産褥期の助産診断とケアができる
2. 助産診断に基づき助産過程の展開ができる
3. 新生児の助産診断ができる
4. 新生児蘇生法が説明できる
5. ハイリスク、異常褥婦、新生児のアセスメントとケアの説明ができる

■授業スケジュール

| 回 | 授業計画 | 学習のポイント |
|----|---|---|
| 1 | オリエンテーション（出石） 産褥期の生理（中村） 褥婦の心理社会的変化 | 産褥期の身体的変化、産褥期の心理社会的特徴 ※事前課題：①退行性変化、進行性変化について復習しノートにまとめておくこと②褥婦の生活について自身がイメージすることをまとめておくこと 事後課題：産褥経過の一覧表の作成（毎回の授業に持参すること） |
| 2 | 産褥期の生理 褥婦の心理社会的変化（出石） | 産褥期の健康生活への適応状態、児の愛着形成と親役割、産後のサポートの講義後、事例を使ってグループワークを行う ※事前課題：ルービンの母性論、マザーの母親役割獲得理論、ボウルビイの愛着理論、クラウス&ケネルのきずな理論、マズローのニード理論をまとめておくこと |
| 3 | 新生児の生理（漆野） | 新生児の定義、胎外生活への適応過程、新生児のフィジカルアセスメント ※事前課題：①新生児の身体的特徴と適応過程について復習しノートにまとめること②新生児に対する自身のイメージをまとめておく 事後課題：新生児経過一覧表の作成（毎回の授業に持参すること） |
| 4 | 新生児のケア（漆野） | 出生時のケア、早期母子接触について、出生後24時間以内のケア、早期新生児のケア、退院に向けてのケア ※事前課題：教科書を読んでノートにまとめておくこと 事後課題：新生児一覧表の作成 |
| 5 | ハイリスク新生児のケア（出石） | ハイリスク新生児ケアの基本、生理学的適応・神経行動学的発達をたすけるケア、早産児・低出生体重児のケア ※事前に教科書を読みノートにまとめておくこと |
| 6 | 産褥期の助産診断 産褥期のフィジカルアセスメント（出石） | 産褥期の助産診断の特徴・診断類型、褥婦の健康診査に必要な技術、産褥経過の診断 ※事前に教科書を読みノートにまとめておくこと |
| 7 | 褥婦の支援 産褥期の異常（中村） | 退行性変化促進の支援、退行性変化に関する異常 ※事前課題：①産褥期の異常をノートにまとめておくこと②産褥経過一覧表のケア欄を埋めておくこと |
| 8 | 褥婦の支援 産褥期の異常（出石） | 進行性変化に対する支援、母乳栄養確立を促すための支援 進行性変化に関する異常 ※事前課題：①産褥期の異常をノートにまとめておくこと②産褥経過一覧表のケア欄を埋めておくこと |
| 9 | 褥婦の支援 産褥期の異常（出石） | 産後のメンタルヘルス、心理社会的側面の支援、産褥期におこる精神的な問題 ※事前課題：産後の社会資源の活用について調べておくこと |
| 10 | 褥婦の支援 産褥期の異常（戸田） | 帝王切開術を受けた褥婦の支援 帝王切開術で出生した新生児の支援 ※事前課題：麻酔の種類と方法・副作用、外科手術（開腹）の術後合併症などを復習しておくこと（確認テストをします） |

| | | |
|----|----------------------|--|
| 11 | 産褥期・新生児期の助産過程の展開（出石） | 正常経過の褥婦事例の助産診断と計画立案のペアワークを行う （助産計画の発表後に講評を行う） ※事前課題：事前に配布した事例のアセスメントと助産診断をしておくこと（授業終了後に提出） |
| 12 | 産褥期・新生児期の助産過程の展開（出石） | 正常経過の新生児事例の助産診断と計画立案のペアワークを行う （助産計画の発表後に講評を行う） ※事前課題：事前に配布した事例のアセスメントと助産診断をしておくこと（授業終了後に提出） |
| 13 | 産褥期・新生児期の助産過程の展開（出石） | 妊娠高血圧症候群の褥婦事例の助産診断と計画立案のペアワークを行う（助産計画の発表後に講評を行う） ※事前課題：事前に配布した事例のアセスメントと助産診断をしておくこと（授業終了後に提出） |
| 14 | 産褥期・新生児期の助産過程の展開（出石） | GDMの母親から出生した新生児事例の助産診断と計画立案のペアワークを行う（助産計画の発表後に講評を行う） ※事前課題：事前に配布した事例のアセスメントと助産診断をしておくこと（授業終了後に提出） |
| 15 | 産褥期・新生児期の助産過程の展開（出石） | 育児に不安を抱える褥婦事例の助産診断と計画立案のペアワークを行う（助産計画の発表後に講評を行う） ※事前課題：事前に配布した事例のアセスメントと助産診断をしておくこと（授業終了後に提出） |
| 16 | 産褥期・新生児期の助産過程の展開（出石） | 低出生体重児事例の助産診断と計画立案のペアワークを行う（助産計画の発表後に講評を行う） ※事前課題：事前に配布した事例のアセスメントと助産診断をしておくこと（授業終了後に提出） |
| 17 | 産褥期・新生児期の助産過程の展開（出石） | 母乳育児が困難な褥婦と新生児の事例の助産診断と計画立案のペアワークを行う（助産計画の発表後に講評を行う） ※事前課題：事前に配布した事例のアセスメントと助産診断をしておくこと（授業終了後に提出） |
| 18 | 産褥期の健康教育①（出石） | 育児指導、授乳指導、沐浴指導、退院指導、家族計画指導のロールプレイを行う ※事前課題：各指導場面の役割分担をし、担当場面の指導案とパンフレットを作成しておくこと 事後課題：①ロールプレイの感想・学び（褥婦の立場、助産師の立場での気づき）をレポートにまとめる ②指導案とパンフレットの修正 |
| 19 | 産褥期の健康教育②（出石） | 育児指導、授乳指導、沐浴指導、退院指導、家族計画指導のロールプレイを行う ※事前課題：各指導場面の役割分担をし、担当場面の指導案とパンフレットを作成しておくこと 事後課題：①ロールプレイの感想・学び（褥婦の立場、助産師の立場での気づき）をレポートにまとめる ②指導案とパンフレットの修正 |
| 20 | 産褥期の健康教育③（出石） | 育児指導、授乳指導、沐浴指導、退院指導、家族計画指導のロールプレイを行う ※事前課題：各指導場面の役割分担をし、担当場面の指導案とパンフレットを作成しておくこと 事後課題：①ロールプレイの感想・学び（褥婦の立場、助産師の立場での気づき）をレポートにまとめる ②指導案とパンフレットの修正 |
| 21 | 産褥期の健康教育④（出石） | 育児指導、授乳指導、沐浴指導、退院指導、家族計画指導のロールプレイを行う ※事前課題：各指導場面の役割分担をし、担当場面の指導案とパンフレットを作成しておくこと 事後課題：①ロールプレイの感想・学び（褥婦の立場、助産師の立場での気づき）をレポートにまとめる ②指導案とパンフレットの修正 |
| 22 | 産褥期の健康教育⑤（出石） | 育児指導、授乳指導、沐浴指導、退院指導、家族計画指導のロールプレイを行う ※事前課題：各指導場面の役割分担をし、担当場面の指導案とパンフレットを作成しておくこと 事後課題：①ロールプレイの感想・学びをレポートにまとめる ②指導案とパンフレットの修正 |

| | | |
|---------------|----------------------------|---|
| 23 | 産褥期の健康教育⑥（出石） | 育児指導、授乳指導、沐浴指導、退院指導、家族計画指導のロールプレイを行う ※事前課題：各指導場面の役割分担をし、担当場面の指導案とパンフレットを作成しておくこと 事後課題：①ロールプレイの感想・学びをレポートにまとめる ②指導案とパンフレットの修正 |
| 24 25 | 学内演習① （出石・井上・中井） | 産褥期のケア（退行性変化の観察、乳房の観察、授乳指導の実際） ※事前学習：授業内容の復習ワークシートをしておくこと（事前に配布します） 事後課題：技術練習を各自で行うこと |
| 26 27 | 学内演習②（木村） | ベビーマッサージ ※事前に教科書（助産学講座3 医学書院）のタッチケアの項目を読んでおくこと |
| 28 30 | NICUとハイリスク新生児のケア （宇治敦子） | 周産期センターにおける新生児医療と看護の実際 ・ハイリスク新生児ケアの基本 ・生理学的適応を助けるケア ・親・家族のケアと協働 *海外NICUの紹介 |

■履修要件

なし

■成績評価の方法・基準

| 種別 | 割合 | 評価基準 |
|------|------|-------------------|
| 定期試験 | 60 % | 筆記試験 |
| 平常点 | 40 % | グループワーク、課題学習、小テスト |

■教科書・テキスト

助産学講座3「母子の健康科学」 我部山キヨ子、武谷雄二編集 医学書院 ISBN978-4-260-02173-9
 助産学講座5「助産診断・技術学Ⅰ」 堀内成子編集 医学書院 ISBN978-4-260-01583-7
 助産学講座7「助産診断・技術学Ⅱ」 我部山キヨ子、武谷雄二編集 医学書院 ISBN978-4-260-01572-1
 助産学講座8「助産診断・技術学Ⅱ」 横尾京子編集 医学書院 ISBN978-4-260-01577-6
 助産師基礎教育テキスト第6巻 横尾京子 責任編集 日本看護協会出版会 ISBN978-4-8180-2026-9
 助産師基礎教育テキスト第7巻 遠藤俊子 責任編集 日本看護協会出版会 ISBN978-4-8180-2027-6

■参考書

産婦人科ガイドライン産科編2017 日本産科婦人科学会/日本産婦人科医会編集・監修 日本産婦人科医会
 新生児蘇生法テキスト 田村正徳監修 メジカルビュー社
 新生児学入門第5版 仁志田博司著 医学書院
 助産師のためのフィジカルイグザミネーション 我部山キヨ子、大石時子編集 医学書院

■授業外学習の指示（準備学習等に必要時間含む）

各授業ごとに2時間程度の予習・復習が必要です。事前・事後課題は各自で準備したファイルに綴じて、最終講に提出となります。事後学習では、演習で習った技術についても復習をしてください。

■オフィスアワー

9:00～17:00 研究室（事前に時間調整をしてください）

■担当教員からのメッセージ

臨地実習で実践する科目であり、演習が技術に反映されるために主体的な学習をしてください。

■担当教員の連絡先

出石万希子：deishi-m@seisen.ac.jp【実務経験あり】

井上佳子：inoue-k@seisen.ac.jp【実務経験あり】

| | | |
|----------|--------------------------|-------------------------------------|
| 【授業科目名】 | 助産診断・技術学Ⅳ（ハイリスク助産診断・技術学） | Diagnosis and Practice of Midwifery |
| 【時間割担当者】 | 初田和勝 山本正仁 | |
| 【実施時期】 | 前期 | 【曜日・時限】水 4時限 |
| | | 【単位数】 1 (15時間) |

■授業の概要

妊娠期、分娩期、産褥期、新生児の異常の疾患と病態および産科的医療処置を理解し、基礎的な判断能力を養う。応急処置としての会陰切開や裂傷に伴う縫合について学び、学内演習を行う。また、縫合に伴う限定された与薬、止血の原理と技法についても理解する。

■授業のねらい

DP1 DP2

妊娠期、分娩期、産褥期、新生児の異常の疾患と病態、および産科的医療処置について理解し、健康状態をアセスメントできる実践的判断能力を習得する。

■授業の到達目標

1. 妊娠・分娩・産褥・新生児の各期の異常について理解することができる。
2. ハイリスク新生児の病態と疾患について理解できる。
3. 産科における急速分娩の適応と禁忌、産科手術、薬物療法、救急時の対応が理解できる。
4. 会陰縫合術などの産科的医療処置について、縫合演習等を通じて理解できる。

■授業スケジュール

| 回 | 授業計画 | 学習のポイント |
|---|------------------------|---|
| 1 | 妊娠期の異常と診断（初田） | 妊娠に起因する疾患と病態、不妊症とその診断、胎児の異常 |
| 2 | 分娩期の異常と診断（初田） | 娩出力の異常、胎児および胎児付属物の異常 |
| 3 | 産褥期の異常と診断（初田） | 身体的な問題、精神的な問題 |
| 4 | ハイリスク新生児の病態（山本） | 新生児の異常徴候と疾患、新生児の疾患、新生児感染症の特徴、新生児仮死、早産児、超低出生体重児のケア |
| 5 | 産科における薬物療法（初田） 産科手術 | 産科麻酔・麻酔分娩、急速分娩の適応と禁忌、止血の原理と方法 |
| 6 | 産科における薬物療法（初田） 産科手術 | 産科麻酔・麻酔分娩、急速分娩の適応と禁忌、止血の原理と方法 |
| 7 | 母児の救急搬送（初田） | 周産期医療システム、救急搬送の実際 |
| 8 | 会陰縫合術（初田） | （応急措置としての）会陰縫合術の演習 |

■履修要件

なし

■成績評価の方法・基準

| 種別 | 割合 | 評価基準 |
|------|-------|-----------------|
| 定期試験 | 100 % | 筆記試験および指定課題レポート |

■教科書・テキスト

助産師基礎教育テキスト第7巻 遠藤俊子 責任編集 日本看護協会出版会 ISBN978-4-8180-2027-6

■参考書

産婦人科ガイドライン 産科編2017 日本産科婦人科学会/日本産婦人科医会編集・監修 日本産婦人科医会
病気がみえる10 産科 第3版 医療情報科学研究所編 メディックメディア

最新産科学 正常編・異常編第22版 荒木勤著 文光堂

助産学講座8 新生児期/乳幼児期 横尾京子編集 医学書院

新生児学入門 第5版 仁志田博司 医学書院

新生児学テキスト 一般社団法人日本新生児成育医学会編 メディカ出版

■授業外学習の指示（準備学習等に必要な時間含む）

助産実践に必要な知識であり、助産師国家試験頻出の重要度の高い科目です。

予習・復習をし積極的に授業に臨んで下さい。(30時間)

■オフィスアワー

授業時間後

■担当教員からのメッセージ

随時指示します。

■担当教員の連絡先

別科助産専攻 教務課

| | | |
|----------|---------|--|
| 【授業科目名】 | 地域母子保健学 | Maternal and Child Health in Community |
| 【時間割担当者】 | 淵元純子 | |
| 【実施時期】 | 前期 | 【曜日・時限】 授業時間割参照 |
| | | 【単位数】 1 (15時間) |

■授業の概要

地域母子保健の意義、地域母子保健の現状と動向、地域母子保健の体系（行政、制度、施策）・基盤・展開（理論と実際など）についておもに講義形式で概説し、地域で生活する母子の健康問題に適切に対処できる基礎的能力を養う。助産師による地域母子保健活動の実際を学び課題を明らかにする。

■授業のねらい

DP1 DP2 DP3 DP4

助産師による地域母子保健活動の意義、母子保健行政・制度・施策などを学び、地域の特性や様々な対象の特性を踏まえた支援の実際について、関連職種と連携し展開する方法が理解できる。

■授業の到達目標

1. 地域特性を踏まえた地域母子保健活動の意義を理解する。
2. 国や県、市町村の地域母子保健行政の体系（母子保健行政・制度・施策）について説明できる。
3. 地域母子保健活動の展開（さまざまなライフサイクルの支援、妊産婦・新生児・褥婦指導の理論と実際、子育て支援活動）や展開する場の特徴を説明できる。
4. 地域の組織活動が説明できる。

■授業スケジュール

| 回 | 授業計画 | 学習のポイント |
|---|-------------|-----------------------------------|
| 1 | 地域母子保健の意義 | ・地域の概念 ・地域の特性と地域母子保健 |
| 2 | 母子保健の現状と動向 | ・我が国の母子保健行政 ・母子保健をめぐる諸問題 |
| 3 | 地域母子保健行政の体系 | ・我が国の母子保健行政の体系 ・滋賀県の母子保健行政の体系 |
| 4 | 地域母子保健活動の実際 | ・母子保健計画・事業への参画 ・市町村における母子保健活動 |
| 5 | 地域母子保健活動の実際 | ・女性のライフサイクルへの支援 ・新生児訪問の理論と実際 |
| 6 | 地域母子保健活動の実際 | ・乳幼児の発育発達と健康診査・予防注射の実際 ・地域組織活動 |
| 7 | 国際化時代の母子保健 | ・諸外国の母子保健活動 |
| 8 | 国際化時代の母子保健 | ・諸外国の母子保健活動 |

■履修要件

なし

■成績評価の方法・基準

| 種別 | 割合 | 評価基準 |
|------|------|-----------------|
| 定期試験 | 60 % | 筆記試験 |
| 平常点 | 40 % | 課題レポート、ディスカッション |

■教科書・テキスト

助産学講座 9 我部山キヨ子、毛利多恵子 編集 医学書院 ISBN978-4-260-02191-3

助産師業務要覧Ⅰ基礎編 福井トシ子 編集 日本看護協会出版会 ISBN978-4-8180-2058-0

助産師業務要覧Ⅱ実践編 福井トシ子 編集 日本看護協会出版会、ISBN978-4-8180-2059-7

■参考書

国民衛生の動向 厚生労働統計協会 著 厚生労働統計協会

わが国の母子保健H30年 母子衛生研究会 母子保健事業団

随時提示します

■授業外学習の指示（準備学習等に必要時間含む）

予習復習に30時間を必要とします。授業で取り上げた内容を復習し、また、母子に関連した新聞やニュースなども意識し、自分なりの考えをまとめておいてください。

■オフィスアワー

授業時間後

■担当教員からのメッセージ

母子保健活動の意義を理解するとともに助産師の果たす役割や地域連携のあり方、母子保健活動の実際や課題について考えを深めて下さい。

■担当教員の連絡先

別科助産専攻 教務課

| | | |
|----------|-----------------|-------------------------------|
| 【授業科目名】 | 地域母子保健学演習 | Seminar of Health Informatics |
| 【時間割担当者】 | 井上佳子 出石万希子 中井恭子 | |
| 【実施時期】 | 通年 | 【曜日・時限】 授業時間割参照 |
| | | 【単位数】 1 (30時間) |

■授業の概要

地域の助産師活動に必要な相談・教育活動の基本的技術を理解し、実践を通じて学ぶ。地域母子保健活動において重要である健康教育や母親教室・両親教室を効果的に実践できるための基礎理論を踏まえ、健康教育、パパママクラスの企画準備・実施・評価および教材作成を行う。

■授業のねらい

DP1, 2, 3, 4, 5

地域における助産師活動の必要性を理解し、地域の特性や対象の個別性を踏まえた助産師活動を計画準備、実施、評価ができる。具体的には、パパママクラスの実践において、対象者の特性を押さえて企画・準備を行い、参加者を尊重した内容と態度、コミュニケーション力を発揮することを目指します。

■授業の到達目標

1. 地域母子保健活動における相談・教育技術について理解し、効果的方法を選択・企画できる。
2. 地域母子保健活動における様々な健康教育について理解する。
3. 地域の特性や対象に応じた健康教育の企画・準備、実施、評価ができる。
4. 地域母子保健活動の実際から助産師の役割が説明でき、今後の自分の目標を明確にできる。

■授業スケジュール

| 回 | 授業計画 | 学習のポイント |
|--------------|----------------|--|
| 1 2 | 相談・教育活動の技術 | 効果的、魅力的な指導とは？（グループワーク） 教育の方法（指導者中心型・共同学習型・学習者中心型、視聴覚教育、eラーニング） 相談技術について |
| 3 5 | 健康教育を企画してみよう！ | 「オレンジリボン運動（子どもの虐待防止の啓発活動）を実践してみよう！」 目標の設定、企画、実施、評価 |
| 6 15 | 地域における助産師活動の実践 | 教材作成：乳房模型、授乳体験ブラジャー、その他必要媒体等（井上） 聖泉大学公開講座におけるパパママクラスの担当 ・クラスの見学、計画・準備、リハーサル、修正、実施、評価（井上、出石、中井） |

■履修要件

なし

■成績評価の方法・基準

| 種別 | 割合 | 評価基準 |
|---------|-----|---|
| 健康教育 | 40% | 健康教育における取り組み姿勢・レポート |
| パパママクラス | 60% | パパママクラスの計画・準備、実施、評価過程における取り組み姿勢と作成媒体・レポート |

■教科書・テキスト

助産学講座5 堀内成子 編集 医学書院 ISBN978-4-260-01583-7

助産学講座9 我部山キヨ子 編集 医学書院 ISBN978-4-260-02191-3

■参考書

随時提示します

助産学講座3 我部山キヨ子、武谷雄二 編集 医学書院 ISBN978-4-260-02173-9

国民衛生の動向 厚生労働統計協会 著 厚生労働統計協会

■授業外学習の指示（準備学習等に必要時間含む）

健康教育およびパパママクラスの見学、企画・準備、リハーサル・修正、実施、評価などに個々の準備時間およびグループワークの時間が必須となります。課題に対して15時間以上が必要です。

■オフィスアワー

随時可ですが、時間については事前に相談してください。

■担当教員からのメッセージ

グループワーク中心となるため、個々の主体的かつ協力的姿勢が大切です。作成した媒体は臨地実習においても活用します。

■担当教員の連絡先

井上佳子：inoue-k@seisen.ac.jp【実務経験あり】

出石万希子：deishi-m@seisen.ac.jp【実務経験あり】

中井恭子 nakai-k@seisen.ac.jp【実務経験あり】

| | | |
|----------|--------|----------------------------------|
| 【授業科目名】 | 母乳育児支援 | Mother's Milk Child Care Support |
| 【時間割名】 | 母乳育児支援 | Mother's Milk Child Care Support |
| 【時間割担当者】 | 渡邊美也子 | |
| 【実施時期】 | 通年 | 【曜日・時限】 授業時間割参照 |
| | | 【単位数】 1 (15時間) |

■授業の概要

母乳育児が重要であることの意義、乳房の解剖生理を理解し、母乳確立のために必要な支援とケアのエビデンス、適切な方法で母乳育児支援を実践できる基礎的能力を養う。

■授業のねらい

DP1 DP2 DP3 DP4 DP5

母乳育児支援に必要な知識および技術を習得し、対象の身体的・心理的・社会的背景を理解したうえで対象を尊重した態度でケアが実践できる能力を養う。

■授業の到達目標

1. 母乳育児の意義について説明できる。
2. 乳房の解剖生理が説明できる。
3. 科学的根拠に基づいた母乳育児支援ができる。

■授業スケジュール

| 回 | 授業計画 | 学習のポイント |
|---|-------------------------------|--|
| 1 | 母乳育児支援の意義 | 母乳育児の利点(メリット)、母乳代用品のマーケティングに関する国際基準、母乳育児の利点についてのグループワークを行い、KJ法による発表を行う |
| 2 | 乳房の形態・解剖 新生児の哺乳行動と解剖 | 乳房の形態・解剖 吸啜・嚥下・呼吸にかかわる新生児の解剖と哺乳行動 |
| 3 | 母乳分泌の生理 | 母乳分泌の生理 |
| 4 | 授乳の方法の実際 | 抱き方と飲ませ方、直接母乳が困難な場合の方法について演習を行う |
| 5 | 授乳アセスメント | 母乳育児支援に必要な情報とアセスメント (アセスメント用紙を使用し、学生2人1組でロールプレイを行う) |
| 6 | 授乳中の問題とその対処 | 授乳中に起こりやすい問題とその対処(母乳不足感、乳頭傷、乳頭損傷、乳管閉鎖、乳腺炎) |
| 7 | 母乳で育つ子どもの発育 母乳と薬剤・嗜好品・母体疾患 | 母乳で育つこどもの発育 薬剤・嗜好品・母体疾患と母乳育児の可否 体重増加不良児の事例についてグループワークを行う |
| 8 | まとめ | まとめ |

■履修要件

なし

■成績評価の方法・基準

| 種別 | 割合 | 評価基準 |
|------|-----|-----------------------------|
| 定期試験 | 80% | 授業の理解度・到達度を確かめるため、筆記試験をおこなう |
| 平常点 | 20% | 受講態度 |

■教科書・テキスト

助産師基礎教育テキスト第6巻 横尾京子編集 日本看護協会出版会 2018 ISBN978-4-8180-2026-9

母乳育児支援講座 水野克己、水野紀子著 南山堂 ISBN978-4-525-50331-4

■参考書

助産学講座6 我部山キヨ子、武谷雄二編集 医学書院 2018 ISBN978-4-260-01613-1

助産学講座7 我部山キヨ子、武谷雄二編集 医学書院 2018 ISBN978-4-260-01572-1

母乳育児支援スタンダード NPO法人日本ラクテーションコンサルタント協会編集 医学書院 ISBN978-4-260-02070-1

母乳育児支援ガイド BFHI2009翻訳編集委員会 医学書院 ISBN978-4-260-00790-0

■授業外学習の指示(準備学習等に必要時間含む)

次の授業内容について教科書、参考書で予習し、授業後は授業中の配布プリント、教科書で復習しておいて下さい

■オフィスアワー

授業時間後

■担当教員からのメッセージ

なぜ母乳育児なのか、育児の基礎となる科目であり、科学的理論と実際を学びます。

■担当教員の連絡先

別科助産専攻教務課

| | | |
|----------|-------|-------------------------|
| 【授業科目名】 | 助産管理学 | Management of Midwifery |
| 【時間割担当者】 | 高橋里玄 | |
| 【実施時期】 | 通年 | 【曜日・時限】 授業時間割参照 |
| | | 【単位数】 2 (30時間) |

■授業の概要

助産管理の基本概念、助産師の業務に関する法的業務管理、周産期管理システムの運用を学ぶ。また、病院・助産所などの助産の行われる場における管理と地域連携システム、周産期の医療事故や災害発生と助産業務などの助産師の危機管理について理解し、助産管理が実践できる能力を養う。

■授業のねらい

DP1 DP2 DP3 DP4 DP5

施設における助産師業務を管理的視点で学び、安全・安心な助産ケア・助産サービスの評価についても理解する。

■授業の到達目標

1. 助産管理の基本概念について説明できる。
2. 助産業務に関する法規の説明ができる。
3. 助産が行われている場の管理について説明できる。
4. 助産師の危機管理について説明できる。

■授業スケジュール

| 回 | 授業計画 | 学習のポイント |
|--------|----------------------------|---|
| 1 | 助産管理の基本概念とプロセス | ・助産管理の概念（助産業務・助産管理の定義・特性） ※シラバスを事前に読んでおくこと |
| 2 3 | 助産管理の基本概念とプロセス | ・助産管理の概念（助産業務・助産管理の定義・特性） |
| 4 5 | 関係法規 | ・関係法規と助産師の義務・責任 ※事前課題：関係法規の課題について説明できるよう教科書・参考書を用いて資料を準備しておくこと（説明不足は補足します） |
| 6 7 | 関係法規 | ・関係法規と助産師の義務・責任 ※事前課題：関係法規の課題について説明できるよう教科書・参考書を用いて資料を準備しておくこと（説明不足は補足します） |
| 8 | 災害時の助産管理 | ・災害時の助産管理 |
| 9 | 災害時の助産管理 まとめ | ・災害時の助産管理 ※課題：周産期の課題について、その解決策をA4用紙にまとめて提出すること |
| 10 | 助産管理の実際 | ・診療所における助産管理 ※事後課題：助産所の広告について各自作成すること |
| 11 | 助産管理の実際 | ・作成した助産所の広告を発表し意見交換を行う（発表後提出） |
| 12 | 周産期管理システム 助産管理の実際（初田聡美） | ・周産期の医療事故とリスクマネジメント ・病院における助産管理 |
| 13 | 周産期管理システム 助産管理の実際（初田聡美） | ・病院における助産管理の実際について |
| 14 | 助産管理の実際・見学（毛利多恵子） | ・助産所における助産管理と実際→毛利助産所見学（神戸市） ・助産所における助産管理 |
| 15 | 助産管理の実際・見学（毛利多恵子） | ・助産所における助産管理と実際→毛利助産所見学（神戸市） ・助産所の形態、法的な業務範囲と責務、職業的・社会的責務（運営管理、業務内容、リスクマネジメント、地域連携、地域母子保健活動） ※課題：助産所の見学をしての学びをA4用紙にまとめて提出 |

■履修要件

なし

■成績評価の方法・基準

| 種別 | 割合 | 評価基準 |
|-----|------|--------------|
| 試験 | 80 % | 指定課題レポート |
| 平常点 | 20 % | 授業内レポート提出、発表 |

■教科書・テキスト

助産学講座 10 我部山キヨ子、毛利多恵子 編集 医学書院
助産師業務要覧Ⅰ・Ⅱ 福井トシ子 編 日本看護協会出版会

■参考書

随時提示

助産所開業マニュアル 日本助産師会 編 日本助産師会
助産師基礎教育テキスト1巻 青木康子他 編 日本看護協会出版会

■授業外学習の指示（準備学習等に必要な時間含む）

予習・復習、課題への取組みに60時間必要とします。

助産師関連法規やリスクマネジメント、助産所管理、災害対策など助産師国家試験においても重要度の高い科目です。

■オフィスアワー

授業時間後

■担当教員からのメッセージ

助産管理の実際について実習を通して学び、安心・安全な助産管理を考察して下さい。

■担当教員の連絡先

別科助産専攻 教務課

| | | |
|----------|-----------------|-----------------------|
| 【授業科目名】 | 助産学研究 | Research in Midwifery |
| 【時間割担当者】 | 井上佳子 出石万希子 中井恭子 | |
| 【実施時期】 | 通年 | 【曜日・時限】 授業時間割参照 |
| | | 【単位数】 1 (30時間) |

■授業の概要

助産ケアの質の向上、助産活動の推進のために必要な助産学研究の意義を説明する。

研究の基礎的な知識として、研究のデザイン（量的研究、質的研究など）、研究倫理、論文の種類、論文構成、文献検索方法、クリティーク等を講義、演習、グループワークを通じて学ぶ。さらに、研究課題の抽出、文献検索、研究計画の立案、データ収集、分析、発表、論文作成という助産研究のプロセスを実践し、助産学研究の基礎的能力を養う。

■授業のねらい

DP1,5

助産研究の意義を理解し、対象への倫理的配慮をした研究方法（計画・調査・論文作成）を理解したうえで、研究プロセス（文献検索から論文作成）を実践する。

■授業の到達目標

1. 助産師と研究の意義が説明できる。
2. 文献（エビデンス：先行研究）を検索し、批判的吟味（クリティーク）ができる。
3. 倫理的配慮をした研究計画を立案し、データ収集、分析、結果・考察のまとめ、発表、論文作成ができる。

■授業スケジュール

| 回 | 授業計画 | 学習のポイント |
|---------------|----------------------------|--|
| 1 2 | オリエンテーション 助産学研究について（井上） | 助産学研究とは、研究における助産師の役割 研究テーマの絞り込み「これはおかしいと思うことを出してみよう！」 研究デザイン、論文の種類、論文構成、研究プロセスなど |
| 3 6 | 文献検索 質的研究 量的研究（出石） | 文献検索の方法と実際 質的研究の方法と実際 量的研究の方法と実際、研究論文の査読について |
| 7 8 | 研究倫理（井上） | 研究倫理確立の歴史、6つの倫理原則、ヒトを対象とする研究について、著者権の侵害、インフォームド・コンセント、利益相反（COI）、倫理審査、執筆について |
| 9 | クリティークについて（井上） | クリティークとは クリティークをしてみよう！（グループワーク） |
| 10 14 | クリティークの実際 （井上、出石、中井） | 2名ずつ原著論文のクリティークを実施、発表（5回） |
| 15 30 | 助産学研究の実際 （井上、出石、中井） | 研究論文作成 （文献検討、研究計画、調査、分析、結果・考察、発表、論文完成） |

■履修要件

なし

■成績評価の方法・基準

| 種別 | 割合 | 評価基準 |
|----------|-----|--|
| 課題提出（論文） | 60% | 課題提出、発表準備（PP・発表原稿）、作成論文 |
| 平常点 | 40% | クリティークでの発表・資料、調査資料提出、グループワークでの積極的取り組みや発言 |

■教科書・テキスト

助産学講座1助産学概論 我部キヨ子、武谷雄二編 医学書院 ISBN978-4-01997-2

新版 助産師業務要覧I基礎編 第3版 2018年版 福井トシ子編 日本看護協会出版会 ISBN978-4-8180-2058-0

看護研究Step by step 第5版 黒田裕子著 医学書院 ISBN978-4-260-03015-1

■参考書

* 随時紹介します。

看護研究・看護実践の質を高める文献レビューのきほん 大木秀一著 医歯薬出版株式会社 ISBN978-4-263-23581-2

Step up質的看護研究第2版 谷津裕子著 学研 ISBN978-4-7809-1181-7

ナースのための質問紙調査とデータ分析 第2版 石井京子、多尾清子著 医学書院 ISBN978-4-260-33208-8

看護研究-原理と方法 D.FポーリットC.Tベック著 医学書院 ISBN978-4-260-00526-5

看護・医療系スタッフのための質問紙作成ワークブック 土屋雅子著 診断と治療社 ISBN978-4-7878-2107-2

■授業外学習の指示（準備学習等に必要時間含む）

授業時間外に文献検索や文献の読み込み、クリティーク、研究のプロセス（テーマの設定、計画書作成、調査、分析、論文作成など）の時間を要します。計画的に研究グループ内で協力しながらすすめていくことが大切です。

■オフィスアワー

随時可ですが、時間については事前に相談してください。

■担当教員からのメッセージ

ICMでは、助産師の基本的必須能力として「研究、根拠に基づく実践、専門的な文献の批判的解釈、人口動態と研究結果の解釈」をあげています。その時代に即し根拠に基づいた助産ケア提供のために重要です。研究の必要を理解し、積極的に取り組まれることを期待します。

■担当教員の連絡先

井上佳子 : inoue-k@seisen.ac.jp 【実務経験あり】

出石万希子 : deishi-m@seisen.ac.jp 【実務経験あり】

中井恭子 : nakai-k@seisen.ac.jp 【実務経験あり】

| | | |
|----------|-----------------|--------------------------------|
| 【授業科目名】 | 助産学実習Ⅰ（分娩介助実習） | Clinical Practice in Midwifery |
| 【時間割担当者】 | 中井恭子 出石万希子 井上佳子 | |
| 【実施時期】 | 通年 | 【曜日・時限】 集中 |
| | | 【単位数】 8 (360時間) |

■授業の概要

病院・診療所において妊産褥婦・新生児について、身体的・心理的・社会的側面から情報収集し、助産診断を行い、立案した計画に沿って対象者の分娩介助、ケアを実践する。提供した助産を客観的に評価し、自己の課題を明らかにすることで、次の助産に活かしていく。

妊産褥婦および新生児の健康診断の結果、異常への逸脱兆候について助言を得て判断できる能力を養う。

■授業のねらい

DP1 DP2 DP3 DP4 DP5

妊産褥婦・新生児について、身体的・心理的・社会的側面から情報収集し、助産診断を行い、立案した計画に沿って正常分娩の介助ができる。助産専門職としてのコミュニケーション能力を身につけ、対象のニーズと優先順位を的確にアセスメントできる能力を養う。提供した助産を客観的に評価し、次の助産に活かすための考察ができる。

■授業の到達目標

1. 妊産褥婦及び新生児についての助産診断を行い、立案した計画に沿って対象者の分娩介助、ケアができる。
2. 提供した助産を客観的に評価し、自己の課題を明かし、次の助産に活かすことができる。
3. 見学を通して妊産褥婦の健康診査と保健指導を実践できる能力を養う。
4. 妊産褥婦の健康診断の結果、異常への逸脱兆候について助言を得て判断できる

■授業スケジュール

| 回 | 授業計画 | 学習のポイント |
|---|---|---|
| | オリエンテーション 分娩介助 産褥期・新生児期のケア 妊婦健康診査の見学 各種保健指導（個別・集団）の見学 | 実習内容： 妊産褥婦を受け持ち、所産過程の展開をし正常分娩の介助を10例程度実践する 実習方法： *外来 産婦人科外来において、妊婦の健康診査及び保健指導を見学する 集団指導を見学する *病棟 10例の正常経過産婦を分娩第1期から第4期まで受け持ち、分娩介助を含む助産過程を実施する 分娩介助した褥婦及び新生児の助産過程を展開し、一部実施する 助産過程の展開や実施したケアは教員と指導者とともに振り返り、次の課題を明確化する |

■履修要件

助産診断・技術学Ⅱの単位を履修し、分娩介助実技試験に合格していること

■成績評価の方法・基準

| 種別 | 割合 | 評価基準 |
|--------|-----|--|
| 助産学実習Ⅰ | 90% | 実習目標の到達度（分娩介助内容）、実習記録内容、助産過程の展開・実践状況から総合的に評価 |
| 平常点 | 10% | 記録物の提出期限 |

■教科書・テキスト

実習要項・資料配布

■参考書

随時提示

■授業外学習の指示（準備学習等に必要な時間含む）

助産診断技術学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳの復習と分娩介助演習

実習記録

■オフィスアワー

実習時間中

■担当教員からのメッセージ

妊産褥婦、新生児のケアに必要な助産診断・助産技術の復習をし、実習に臨んで下さい

■担当教員の連絡先

井上佳子：inoue-k@seisen.ac.jp【実務経験あり】 出石万希子：deishi-m@seisen.ac.jp【実務経験あり】

中井恭子：nakai-k@seisen.ac.jp【実務経験あり】

| | | |
|----------|-----------------|--------------------------------|
| 【授業科目名】 | 助産学実習Ⅱ（継続事例実習） | Clinical Practice in Midwifery |
| 【時間割担当者】 | 出石万希子 井上佳子 中井恭子 | |
| 【実施時期】 | 通年 | 【曜日・時限】 集中 |
| | | 【単位数】 2 (90時間) |

■授業の概要

妊娠後期の妊婦（初産婦）を一人受け持ち、妊娠経過をふまえて産後1ヶ月までの個別的な助産過程が実施できる。妊娠から産後1ヵ月までの健康診査・保健指導・分娩介助・産後訪問（新生児訪問）の助産ケア技術を習得し、実践する。新生児の出生直後から生後1ヶ月までをアセスメントし、助産診断を行い必要なケアが実施できる。

■授業のねらい

DP1 DP2 DP3 DP4 DP5

妊娠後期から産後1ヶ月までの妊婦（初産婦）を受け持ち、継続した個別的な助産計画を立案し、助産診断、ケアの実際および退院後の母児の援助技術を実践することができる。妊娠後期から産後1ヵ月まで継続して1人を受け持ち、対象の立場に立って考え、対象および家族との信頼関係を築くことができる。

■授業の到達目標

1. 妊産褥婦及び新生児の健康診査と保健指導ができる
2. 分娩期の助産過程の展開ができ、正常分娩の介助ができる
3. 産後1ヶ月に家庭訪問ができ、健康診査と保健指導ができる

■授業スケジュール

| 回 | 授業計画 | 学習のポイント |
|---|--|---|
| | オリエンテーション 妊婦健康診査・保健指導の実施 分娩介助 産褥・新生児の助産過程の展開と実施 産後健診の実施 産後家庭訪問の実施 | 実習内容 1. 継続事例（初産婦）の健康診査と保健指導を行う 2. 継続事例の分娩介助・産後家庭訪問、産後健診を行う 実習方法 1. 継続事例（妊娠後期～産後1ヶ月）1例を実習施設指導者が選定し、受け持ち開始後～産後1ヶ月までの妊婦健康診査と保健指導、分娩介助、産褥・新生児のケア、産後健康診査、産後訪問、1ヵ月健診を行う 助産計画や保健指導、家庭訪問については、事前に教員・臨床指導者の指導を得て実施する 異常に移行した場合は、臨床指導者の指示に従い、可能な範囲で援助を行う 2. 産後家庭訪問 |

■履修要件

助産診断Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの単位を履修し、分娩介助実技試験に合格していること

■成績評価の方法・基準

| 種別 | 割合 | 評価基準 |
|--------|-----|--|
| 助産学実習Ⅱ | 70% | 実習目標の到達度（分娩介助内容）、実習記録、助産過程の展開・実践状況総合的に評価 |
| 平常点 | 30% | 実習記録の提出期限 |

■教科書・テキスト

実習要綱・資料配布

■参考書

随時提示

■授業外学習の指示（準備学習等に必要な時間含む）

助産診断・技術学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳの復習と分娩介助演習

保健指導案およびパンフレットの作成

実習記録

■オフィスアワー

実習時間中

■担当教員からのメッセージ

妊産褥婦、新生児のケアに必要な助産診断・助産技術の事前学習をし、実習に臨んで下さい。また、個別指導に必要な教材は事前に準備し実習に臨んで下さい。

■担当教員の連絡先

井上佳子：inoue-k@seisen.ac.jp【実務経験あり】

出石万希子：deishi-m@seisen.ac.jp【実務経験あり】

中井恭子：nakai-k@seisen.ac.jp【実務経験あり】

| | | |
|----------|---------------------|--------------------------------|
| 【授業科目名】 | 助産学実習Ⅲ（地域連携と母子保健活動） | Clinical Practice in Midwifery |
| 【時間割担当者】 | 井上佳子 出石万希子 中井恭子 | |
| 【実施時期】 | 通年 | 【曜日・時限】 集中 |
| | | 【単位数】 1 (45時間) |

■授業の概要

対象の地域や社会背景・家族状況を踏まえた地域における母子保健活動の実際を知り、助産師の役割を理解する。

■授業のねらい

DP1, 2, 3, 4

対象の個性を踏まえた地域における助産師活動（思春期教育、妊娠期から産後育児期における母子支援、社会資源の活用、関連職種との連携など）の実際を理解し、地域母子保健活動の具体的方策を学ぶ。そのうえで、地域母子保健活動や妊産婦への切れ目ない支援に向けたこれからの助産師としての課題や可能性を考える。

■授業の到達目標

1. 開業ならびに施設内助産師における母子保健活動の実際を見学し、その目的と方法を説明できる。
2. 助産師による性（いのち）の教育の意義・役割を説明でき、関係職種との連携を理解する。
2. 切れ目ない支援に向けた体制と助産師の役割について説明できる。
4. 母子関連事業の実際を見学し、現状・課題が説明できる。
5. 専門職能団体（助産師会）の活動を説明できる。

■授業スケジュール

| 回 | 授業計画 | 学習のポイント |
|---|---|---|
| | 1. 実習期間：2019年7月～8月（地域母子保健活動や事業による） 2. 実習場所 ①滋賀県内中学校もしくは高校 ②愛荘町保健センターまたは彦根市保健センター ③滋賀県助産師会 子育て・助産健康支援センター ④大阪府助産師会 産後ケアセンター ⑤新生児訪問先 ⑥市立大津市民病院 | オリエンテーション 事前課題レポート 実習内容 ①滋賀県下の中学または高校における性教育見学 ②愛荘町保健センターもしくは彦根市保健センターにおける4か月乳児健康診査見学 ③滋賀県助産師会の子育て・女性健康支援センターにおける電話相談見学 ④大阪府助産師会の産後ケアセンターにおける産後ケアセンター事業見学、大阪市地域子育て支援拠点事業（おひさまサンサン広場）見学 ⑤新生児訪問の実際を見学 ⑥妊娠期からの母乳育児クラス見学 各実習詳細についてはオリエンテーションおよび事前説明行います。 |

■履修要件

なし

■成績評価の方法・基準

| 種別 | 割合 | 評価基準 |
|--------|-----|--------------------------------|
| 助産学実習Ⅲ | 70% | 実習目標の到達度、指導者からの評価、実習記録にて評価します。 |
| 平常点 | 30% | 事前課題レポート |

■教科書・テキスト

助産診断・技術学Ⅰ 堀内成子編 助産学講座5 医学書院 ISBN978-4-260-01583-7

助産学講座9 地域母子保健・国際母子保健 我部山キヨ子編 医学書院 ISBN978-4-260-02191-3

〔新版〕助産師業務要覧 第3版 2018年版 実践編 福井トシ子編 日本看護協会出版会 ISBN978-4-8180-2059-7

■参考書

随時提示します

■授業外学習の指示（準備学習等に必要な時間含む）

事前に各実習についてのレポート提出を課題とします。

主体的に調べ学び、実習をリフレクションしてください。

■オフィスアワー

随時連絡します。

■担当教員からのメッセージ

関連科目を統合し、学びを深めることを期待します。

とくに、地域母子保健学、地域母子保健演習を意識してください。

■担当教員の連絡先

井上佳子：inoue-k@seisen.ac.jp【実務経験あり】 出石万希子：deishi-m@seisen.ac.jp【実務経験あり】

中井恭子：nakai-k@seisen.ac.jp【実務経験あり】

| | | |
|----------|--------|---|
| 【授業科目名】 | 国際母子保健 | International Maternal and Child Health |
| 【時間割担当者】 | 宇治敦子 | |
| 【実施時期】 | 前期（選択） | 【曜日・時限】 授業時間割参照 |
| | | 【単位数】 1 (15時間) |

■授業の概要

世界における母子保健の現状と課題、助産師の国際活動の実際について理解し、国際社会に対応できる助産師に必要な基礎的能力を養う。在日外国人妊産婦の現状と課題を踏まえ、日本における助産師の役割について考える。また、滋賀県での国際母子保健についての課題について理解する。

■授業のねらい

DP1, 3, 5

世界の母子保健の現状、途上国における助産師の支援活動、在日外国人の母子保健の現状と課題について学び、国際社会に対応できる助産師に必要な基礎的知識を養い、母子保健をめぐる課題を考察することができる。

■授業の到達目標

1. 世界の母子保健の現状と課題、助産師の役割について説明できる。
2. 開発途上国における母子の健康問題と助産師の支援活動について説明できる。
3. 在日外国人妊産婦の現状と課題、助産師の役割について説明できる

■授業スケジュール

| 回 | 授業計画 | 学習のポイント |
|---|------------------------|--|
| 1 | 世界における母子保健の現状と課題 | 出生数と合計特殊出生率、妊産婦死亡率と死亡原因、人工妊娠中絶率、性感染症の問題、乳幼児死亡率と死亡原因など、日本との比較 日本人には理解が難しい外国人の妊娠分娩や育児の慣習 |
| 2 | 国際母子保健政策 | 国際母子保健施策の現状 WHOの取り組み・日本が途上国に対して行う支援政策 日本において在日外国人に対して行う支援の現状と課題 |
| 3 | 途上国における助産師活動の実際① | 途上国での課題—JICA（国際協力機構）や途上国支援を行うNPO法人における助産師活動 家族計画、妊婦健診、感染予防、出産後の母子の健康問題など、 |
| 4 | 途上国における助産師活動の実際② | 途上国での課題—JICA（国際協力機構）や途上国支援を行うNPO法人における助産師活動 家族計画、妊婦健診、感染予防、出産後の母子の健康問題など、 |
| 5 | 国際活動と助産師の役割 | 先進国（カナダ）及び途上国（ベトナム、ブータン）での産科やNICUの実際を通して、他国への理解を深め、支援の在り方について考える |
| 6 | 滋賀県の現状 在日外国人妊産婦の課題① | 在日外国人妊産婦の課題と助産師の役割 在日外国人支援の実際（産科→NICU→地域連携） 症例を通して、今すぐ自分達ができることについて考える（グループワーク） テーマ「もし自分の病院に外国人妊産婦が来たら、助産師としてなにができる？」 |
| 7 | 滋賀県の現状 在日外国人妊産婦の課題② | 在日外国人妊産婦の課題と助産師の役割 在日外国人支援の実際（産科→NICU→地域連携） 症例を通して、今すぐ自分達ができることについて考える（グループワーク） テーマ「もし自分の病院に外国人妊産婦が来たら、助産師としてなにができる？」 |
| 8 | まとめ | グループワーク発表後のリフレクション |

■履修要件

なし

■成績評価の方法・基準

| 種別 | 割合 | 評価基準 |
|---------|-----|--------------------|
| 課題のレポート | 80% | 授理解度を確かめるための課題レポート |
| 平常点 | 20% | 授業内課題の取り組み、提出物 |

■教科書・テキスト

助産学講座9 地域母子保健・国際母子保健 我部山キヨ子 編集 医学書院 ISBN 978-4260021913

■参考書

随時提示

助産師基礎教育テキスト第1巻 助産概論 山本あい子 編集 日本看護協会
助産師基礎教育テキスト第3巻 周産期における医療の質と安全 成田伸 編集 日本看護協会
国際看護・国際保健 丸山英二 編集 弘文堂

■授業外学習の指示（準備学習等に必要な時間含む）

30時間の予習、復習が必要です。

■オフィスアワー

授業後

■担当教員からのメッセージ

国際母子保健と言うと世界に飛び出す日本人助産師のことと思いがちですが、訪日外国人観光客や労働者の増加により、日本で活動する助産師にも大きな役割を求められる分野となりました。特別なことは必要ないのです、外国語が話せなくても、「日本人らしい心のこもった看護」を提供できるきっかけを、この講義の中から皆さんと一緒に学び、見つけていきたいなと思っています。

■担当教員の連絡先

別科助産専攻 教務課

| | | |
|----------|---------|---|
| 【授業科目名】 | 母子保健政策論 | Maternal and Child Health Policy Theory |
| 【時間割担当者】 | 高橋健太郎 | |
| 【実施時期】 | 後期（選択） | 【曜日・時限】 授業時間割参照 |
| 【単位数】 | 1（15時間） | |

■授業の概要

母子をめぐる社会制度、母子保健施策および母子保健統計について理解し、地域社会の母子保健の課題を認識して、助産師の役割を考える。

■授業のねらい

DP2 DP3 DP5

わが国の障害児、少子化社会、ドメスティックバイオレンスや児童虐待など母子をめぐる社会制度・母子保健施策および母子保健統計について理解し、地域社会における母子保健の課題を見出し、助産業務に活かせる態度を養う。

■授業の到達目標

1. 母子保健をめぐる社会制度・母子保健施策が説明できる。
2. 母子保健に関連する統計が説明できる。
3. 母子保健の課題を理解し、対策が説明できる。

■授業スケジュール

| 回 | 授業計画 | 学習のポイント |
|---|--------------------|---------------------------|
| 1 | 母子保健に関する統計と動向 | わが国の母子保健の現状 |
| 2 | 母子保健に関する統計と動向 | わが国の母子保健の現状 |
| 3 | 滋賀県における周産期医療の現状と課題 | 滋賀県における周産期医療の現状と課題 |
| 4 | 滋賀県における周産期医療の現状と課題 | 滋賀県における周産期医療の現状と課題 |
| 5 | 居住地域における母子保健の現状と課題 | 妊産婦の居住地域における母子保健の現状と課題 |
| 6 | 居住地域における母子保健の現状と課題 | 妊産婦の居住地域における母子保健の現状と課題 |
| 7 | 母子保健の課題 | 今後の母子保健の課題と助産師の役割を考える |
| 8 | 母子保健の課題 | 今後の母子保健の課題と助産師の役割を考える、まとめ |

■履修要件

なし

■成績評価の方法・基準

| 種別 | 割合 | 評価基準 |
|------|-------|----------|
| 定期試験 | 100 % | 指定課題レポート |

■教科書・テキスト

助産学講座1 我部山キヨ子、武谷雄二 編集 医学書院 ISBN978-4-260-01997-2
滋賀の母子保健 滋賀県健康福祉部健康長寿課

■参考書

母子保健の主なる統計 最新年度版 母子保健事業団 母性衛生研究会 編
わが国の母子保健 最新年度版 母子保健事業団 母性衛生研究会 編
助産師基礎教育テキスト第1巻 日本看護協会出版会 山本あい子 編集

■授業外学習の指示（準備学習等に必要な時間含む）

講義時間15時間に対し、30時間の予習、復習が必要です。

■オフィスアワー

授業時間後

■担当教員からのメッセージ

我が国の母子保健の現状から助産師としての役割や責務について学び、助産師業務に関連づけて見て下さい。

■担当教員の連絡先

別科助産専攻 教務課

【授業科目名】 助産情報学演習 Seminar of Midwifery Informatics

【時間割担当者】 田中美恵子

【実施時期】 前期（選択） 【曜日・時限】火 2時限

【単位数】 1 (30時間)

■授業の概要

医療現場で必要とされる情報リテラシーを習得するため、コンピュータ概論、Word、Excel、PowerPoint、情報セキュリティ・情報モラルを学ぶとともに、情報のデータ化、整理・保管・表現・プレゼンテーションが効果的にできるか等の情報処理の基本操作技能を習得する機会とする。

■授業のねらい

DP2 DP5

各種のアプリケーションソフトを使い、さまざまなデータを基に編集、集計や分析を行い、情報の適切な判断の資料として利用できるようにする。

■授業の到達目標

1. 効率よく文書が作成できる。
2. PC を活用し文献検索ができる。
3. パワーポイントによるプレゼンテーションができる。
4. 統計解析の基礎的な手法を理解する。

■授業スケジュール

| 回 | 授業計画 | 学習のポイント |
|----|------------------------------|--|
| 1 | コンピュータ概論 | 学内・学外ネットワークの利用、タッチタイピングの基礎、電子メールの利用 ※シラバスを事前に読んでおくこと。テキスト P1~15 の予習 課題を manaba に提出 P15 確認問題の作成 |
| 2 | 文字入力とファイル管理 基本的な文書の作成 | Word の基本操作 文字入力 文章の入力、文書の作成・印刷、ファイルの管理 ※テキスト P17~40 の予習 課題を manaba に提出 P40 練習問題 3 |
| 3 | 情報セキュリティ・情報モラル | 情報セキュリティ、情報モラル 小テスト ※テキスト P187~194 の予習 課題を manaba に提出 P193-194 確認問題の作成 |
| 4 | ビジネス文書の作成 表の作成 | 一般的なビジネス文書の作成 表の作成 ※テキスト P41~54 の予習 課題を manaba に提出 P55-56 練習問題 5-1 練習問題 5-2 の作成 |
| 5 | インターネットによる情報検索 図形とイラストの挿入 | 和文文献の文献検索(医学中央雑誌等) 英文文献検索(CINAHL 等) ※聖泉図書館のホームページを見ておく 課題を manaba に提出 検索論文の一覧を作成 図形とイラスト 表の作成 ※テキスト P57~70 の予習 課題を manaba に提出 P71 練習問題 6-2 の作成 |
| 6 | 集計表の作成 関数を使った表作成 1 | Excel の基本、データ入力、数式を使った表作成 ※テキスト P73~102 の予習 課題を manaba に提出 P85 練習問題 7-2 P102 練習問題 8 の作成 |
| 7 | 関数を使った表作成 2 | 関数を使った表作成 IF 関数 ※テキスト P103~110 の予習 課題を manaba に提出 P111 練習問題 9 の作成 |
| 8 | 統計処理 | 統計関数 代表値の算出 ※テキスト P113~130 の予習 |
| 9 | データとグラフ | グラフの作成 ※テキスト P131~141 の予習 課題を manaba に提出 P142 練習問題 11-1 11-2 の作成 |
| 10 | データの活用 | データの活用 日付関数 データの参照 (VLOOKUP 関数) IF 関数のネスト ※テキスト P143~153 の予習 課題を manaba に提出 P153 練習問題 12-1 12-2 の作成 |
| 11 | プレゼンテーションの作成・デザイン | PowerPoint の基本操作 プレゼンテーションのデザイン性の向上 ※テキスト P155~185 の予習 課題を manaba に提出 P186 練習問題 14-2 の作成 |

| | | |
|----|-----------------------------|--|
| 12 | 分析ツールの利用 | アンケート集計 ※「分析ツールの利用」資料の予習 |
| 13 | データ分析ソフトの利用 | SPSSの基礎 ※「データ分析ソフトの利用」資料の予習 |
| 14 | プレゼンテーション資料の作成 ビジネス文書の作成 | PowerPointによるプレゼンテーションの作成 課題をmanabaに提出 プレゼン資料の作成 確認テスト 標準的なビジネス文書の作成 |
| 15 | まとめ | 統括と復習 今までの授業で理解が不十分だと思われるところを読み返しておく。 |

■履修要件

なし

■成績評価の方法・基準

| 種別 | 割合 | 評価基準 |
|------|------|-------------------|
| 定期試験 | 50 % | 到達目標確認のための実技試験 |
| 平常点 | 50 % | 授業ごとの演習や課題で理解度を評価 |

■教科書・テキスト

医療従事者のための情報リテラシー 第2版, 森 由紀, 日経BP社, 978-4-8222-5343-1

■参考書

・随時資料配布

■授業外学習の指示（準備学習等に必要な時間含む）

演習中心の授業です。毎回の授業で課する演習問題や課題は、その指示による期限に従い必ず提出すること。毎回の学習ポイントをしっかりと押さえ、授業に備えてください。課題については、manabaをつかって掲載し、次の授業時に作成例を提示し復習する。概ね予習および復習など15時間

■オフィスアワー

メールで対応

■担当教員からのメッセージ

研究の基礎となる科目です。自己学習を充実して下さい。なお、授業の進捗状況により課題が変更される場合があります。

■担当教員の連絡先

lect146h@seisen.ac.jp (田中美恵子メールアドレス)

| | | |
|----------|-----------|--|
| 【授業科目名】 | リラクゼーション論 | Relaxation / Theory and Practice of Relaxation |
| 【時間割担当者】 | 出石万希子 | |
| 【実施時期】 | 後期（選択） | 【曜日・時限】 授業時間割参照 |
| | | 【単位数】 1 (15時間) |

■授業の概要

近年、ハイリスク妊産婦の増加や地域社会の変化に伴う人間関係の希薄化など、母子を取り巻く環境はストレスの多い日常となっている。母子の健康維持・増進やさまざまな不定愁訴の軽減を図るための補完代替療法として、アロマセラピー、産前・産後のヨガ、リフレクソロジー、マッサージの基本的な技術を習得する。また、助産師自身のセルフケアへの活用についても考え実践できる基礎力を養う。

■授業のねらい

DP2 リラクゼーションの理論と実際を学び、セルフケア及び看護実践の場でリラクゼーションテクニックを活かせることをめざす。

DP4 助産の専門知識とリラクゼーションの知識を統合し、対象者の心身のニーズに合わせたコミュニケーション技術を獲得する

■授業の到達目標

1. 補完代替療法の理論と実際が説明できる
2. 天然素材を用いた療法の理論を理解し、助産実践に活用する技術を習得する
3. 産前・産後のヨガに関する知識を習得し、実践できる
4. 補完代替療法を助産実践の場でどのように取り入れるか考え、説明することができる

■授業スケジュール

| 回 | 授業計画 | 学習のポイント |
|---|--|---|
| 1 | オリエンテーション 補完代替療法の概要 リラクゼーションの理論と定義 | 補完代替療法の歴史と種類、リラクゼーションの定義と方法、助産師のセルフケアについての講義を行う ※事前にシラバスを読んでおくこと |
| 2 | 天然素材を用いた療法の基礎知識 | アロマセラピー、ハーブ療法の概要、作用機序、留意点、関係法規、活用方法についての講義を行う ※事前に教科書 p. 191～200 を読んで予習しておく |
| 3 | 天然素材を用いた療法の実際 | エッセンシャルオイルを活用したグッズの作成 ※事後課題：作成したグッズの効果・効用、活用方法をまとめ manaba で提出 |
| 4 | 東洋医学の基礎知識 エネルギー療法の実際 | 東洋医学・鍼灸医学の概念、助産に関連する鍼灸療法についての講義後に指圧・リフレクソロジーの実践 ※事前に教科書 p. 170～190 を読んで予習しておく ※事後課題：実践した内容の感想と活用方法についてまとめて manaba で提出 |
| 5 | 妊産婦のマッサージ療法の基礎知識 | リメディアルマッサージの概要、留意点、解剖生理、手技についての講義を行う ※事前に人体の骨格と筋肉についての解剖を復習しノートにまとめておく |
| 6 | 妊産婦のマッサージ療法の実際 | グループに分かれてマッサージ療法を実践する ※事後課題：妊産婦のマッサージを行う際の留意点や配慮する点、活用方法についてレポートにまとめ manaba で提出 |
| 7 | 妊産婦の運動生理学 | 妊産婦の運動に関する基礎知識（目的、問題点、効果）、マタニティヨガの理論と基本プログラム、教室運営についての講義を行う ※事前に教科書 p. 112～152 を読んで予習しておくこと |
| 8 | 産前・産後のヨガの実際 | マタニティヨガ、産後のヨガの実践 ※事後課題：産後のヨガ教室の企画書を作成して提出 |

■履修要件

なし

■成績評価の方法・基準

| 種別 | 割合 | 評価基準 |
|------|------|-----------|
| 定期試験 | 50 % | 指定課題レポート |
| 平常点 | 50 % | 事前・事後課題学習 |

■教科書・テキスト

助産学講座3「母子の健康科学」 我部山キヨ子、武谷雄二 編集 医学書院 2018 ISBN 978-4-260-02173-9

■参考書

適宜提示します

■授業外学習の指示（準備学習等に必要な時間含む）

講義前後の予習や課題については授業スケジュールに提示します。課題についてはmanabaに掲載し、次回授業で講評等でフィードバックしますので、期限までに提出してください。

■オフィスアワー

火曜日・金曜日9:00~17:00 研究室にいますが、メール対応も可能です。

■担当教員からのメッセージ

対象者へのリラクゼーションと共に、医療者自身もリラクゼーションを図ることができればと願っています。

■担当教員の連絡先

出石 : deishi-m@seisen.ac.jp 【実務経験あり】